

耶穌降生一千八百一十四年 大英國聖書

舊約
聖書

聖經全譯

明治十七年

日本橫濱印行

02-KYU

海老澤文庫

02-KYU
1530
2b

出埃及記
一 イスラエルの子弟のエジプトふ至りし者の名の左の
とし衆人各の家族をたづさへてヤコブとともにふ至れり
はちルベシ、シメオン、レビ、ヨダ、ミツサカル、セブルン、ペニ
ヨダン、ナフタリ、ガド、アセルあり。ヤコブの腰より出たる者ハ都邑
合七十人ヨセフはすであエジプトふありき。ヨセフどろの諸の
兄弟および當世の人みる死たりセイスラエルの子孫饒く子を生
み彌増殖え甚だ志く大ふ強くありて國ふ満るふいたれりハ
ヨセフの事を志らざる無き王エジプトふ起りしづた彼の民ふ
いひけるハ祇よ此民イスラエルの子孫われらよりも多く且強し
來れわれら横巧く彼等ふ事をあさん恐くハ彼等多あらん又戰
爭の起ることある時ハ彼等敵ふくみして我等と戰ひ遂ふ
いでさらんとすゐいち督者をのれらの上ふ立て彼らふ重荷を



海老澤有道文庫

おはせて之を苦む彼等バロのためお府庫の邑ヒトムとラメセス
を建たり。然るエイスラエルの子孫へ苦むるお體ひて増し殖た
れば皆みれを懼れたり。エジプト人エイスラエルの子孫を嚴く勤
作かしめ。辛苦き力役をもて彼等を去て苦みて生を度らしむ。即ち
和泥作瓶、および田圃の諸の工。おはたらうしめける。其働るしめ
し工作。皆嚴くり。エジプトの王又ハブルの産婆シフラと名
くる者とブワと名くる者の二人ふ諭してまいひける。汝等ヘブ
ルの婦女のためお取生をあす時ハ床の上を見て。うの子若男子あ
らをこそを殺せ。女子あらば生しあくべし。然ふ産婆祠を畏れ
エジプト王の命ぜしことく爲すして男子をも生しあけり。大エジ
プト王産婆を召して之のいひける。汝等。尔今此事をあし。男子を
生しあくや。サランチヤ。バロ。小言ける。ハブルの婦。エジプトの婦の
ごとくならず。彼等ハ健して産婆の色らふ。至らぬ前。小产をれる
お命じていふ。男子の生るあらば汝等これを恐く河お投い。是より
子れ皆生しあくべし。

一爰。エレビの家の一箇の人往てレビの女を娶り。女姪
みて。男子を生み。その美きを見て三月のあひだれを匿せし。大
すでにあれを匿そ。あなたへさるにいたり。け色を蒼の箱角を之。おた
めに取て。之に蒼青と樹脂を塗り。子をろの中に納て。これ河邊の
葦の中に置り。その頃遙に立てる。如何にあるかを窺ふ。茲に
バロの女身を洗ん。とて河にくだり。うの娘等。河の傍にあゆむ。彼等
の中に箱角あるを見て。使女をつかひして。これを取きたら。志め六
みを啓きて。るの子の。見るを見る。嬰兒する。わち暗く。彼のみれを憐

みていいひけるは是れハブル人の子あり七時にうの娘ハロの娘
にいひけるハ我ゆきてハブルの女の中より此子をなんちのため
に養ふべき乳母を呼きたんクハロの女往よと之よいひけれ
ぞ女子すなれち往てろの子の母を呼きたるハロの女られおい
ひけるハ此子をつまゆきてわがために之を養へ我の値をなん
ちにどらせんと婦するちろの子を取てこを養ふハ斯てろの
子の長するにあよびて之をハロの女の所にたづさへもきけれそ
すなれちこれダ子となる彼の名をモ一セ(援出)と名けて言ふ我
之を水より授いだせしに因ると云々にモ一セ生長にあよびて
一時いで三の兄弟等の所にいたりるの重荷を負ふを見しが會
一箇のエコブト人一箇のイスラエル人即ちののきの兄弟を擊
つを見た色を三右左を視まへして人のをらざるを見て三のエコ
ブト人を擊てろ之を沙の中に埋め匿せり三次の日また出て二

人のヘブル人の相争ふを見た邑バロの曲きにむろひ汝なんぞ汝の隣人を擊つやといふに當彼いひけるは雖ダ汝を立てわきらの君とし判官としたるや汝のエジプト人をころせしだとく我をも殺さんとするやど是ふおいてモーセ懼れてろの事かならず知れたるあらんとおもへり主バロ此事を聞いてモーセを殺さんとも止めけれどモーセするハチバロの面をさけて逃げのミニアンの地お住り彼井の傍ふ坐せり夫ミニアンの祭司お七人の女子ありしが彼等來りて水を汲み水鉢お盛て父の羊群お飲はんとしけるお牧羊者等またりて彼らを逐はらひなればモーセ起あだりて彼等をたずなうの羊群お飲ふお彼等うの父リウエルお至る時父言けるは今日はあんぢら何うぐく速おクヘりしやおの色らいひけるハ一箇のエジプト人わらを牧羊者等の手より救いだし亦われらのために水を多く汲て羊群お飲しめたり平父汝等ふ

いひけるは彼は何處かをるや汝等あんぞうの人を遣てきたりし
や彼をよびて物を食志めよどニモキセこの人どももお居ること
を好みり彼するはちろの女子チッポヲモーセお與ふ三彼男子
を生ミければモーセの名をケルシヨム(客)と名けて言ふ我異邦
ふ客どありを乞をありと三斯て時をふる程エジプトの王死り
イスラエルの子孫の勞役の故およりて歎き號ふるの勞役の
故あよりて號ふとてろの聲神お達りけ色を旨神ろの長呻を開き
神ろのアブラハム、イサク、ヤコブおしたる契約を憶え三神イス
ラエルの子孫を眷ミ神知しめしたまへり

三二 一モーセの妻の父あるミデアンの祭司エテロの群を散
ひをり志むろの群を曠野の奥にみちびきて神の山ホレブに至る
ニエホバの使者棘の裏の火篭の中にて彼おあらわる彼見るお
棘火に燃色どもろの棘燃すニモーせいひけるハ我ゆきてての大

ある觀を見何故お棘の燃たえざるかを見んヨエ水バ彼おきたり
觀んとするを見たまふ即ち神棘の中よりモーセよモーセよと彼
をよびたまひけれ我てよにありといふお神いひたまひける
は此お近よるふれ汝の足より履を脱ぐべし汝立つ處は聖き
地あれとなりたまひけるは我はかんちの父の神アブラ
ハムの神イサクの神ヤコブの神ありモーセ神を見るてとを畏
れてうの面を蔽せりセエホバ言たまひけるは我まことエジプ
トにをるわみ民の苦患を祓また彼等ダラの驅使者の故をもて號
ふとてろの聲を聞き我われらの憂苦を知るありえわれ降りてう
れらをエジプト人の手より救ひだし之を彼地より導きのぼり
て善き廣き地乳と蜜との流るゝ地するはちカナン人、ヘブ人、アモ
リ人、ベリヤ人、ヒビ人、エヌス人のをる處おいたら左めんとすれ
イスラエルの子孫の號呼わきに達る我またエジプト人お彼らを

苦むるの暴虐を見たりナ然バ來れ我あんぢをパロみつらはし
 汝をしてわダ民イスラエルの子孫をエジプトより導きいださ
 めんセモー一セ神あいひけるは我は何如ある者ナや我豈パロの跡
 ふ往きイスラエルの子孫をエジプトより導きいだすべき者あら
 んやナニ神いひたまひけるは我アムラサヌ汝どもにあるべし是は
 巨ダ汝をつうはせる譜據あり汝民をエジプトより導きいだした
 る時汝等ての山あて神お事へんミセー一セ神あいひけるは我イス
 ラエルの子孫の所ゆきて汝らの先祖等の神我をあんぢらお遣
 はしたまふと言んふ彼等もし其名は何と我お言を何とかれらに
 言べきや當神セー一セおいひたまひけるは我は有て在る者アリ又
 いひたまひけるは汝うくイスラエルの子孫おいふべし我有とい
 ふ者我をなんぢらお遣したまふと汝またモー一セおいひたまひ
 けるは汝かくイスラエルの子孫おいふべしるんぢらの先祖等の神
 順等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我おあられて盲
 たまひけらく我誠ふあんぢらを眷ミ汝らをエラブトふて蒙る
 ふろの事を見たり我するハチ言り我汝らをエラブトの苦患の
 中より導き出してガナン人、ヘラ人、アモリ人、ヒビ人、エブ
 ス人の地すみはち乳と蜜の流るゝ地にのぼり至ら志めんとナ彼
 等あんぢの言に聽志たダムベシ汝とイスラエルの長老等エジプ
 トの王の時おいたりて之お言ヘヘブル人の神エホバ我らお臨め
 り然バ請ふわれらをして三日程同と曠野ふ入志めわれらの神エ
 ホバお犧牲をさよぐることを得せ志めよと我志るエジプトの
 王は假令能力ある手をくはぶるも汝等の往をゆるさきるべし

アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバわれを汝らみつ
 はしたまふとは永遠おわざ名とあり世々おわざ誌とあるべし
 去汝往てイスラエルの長老等をあつめて之おいふべし汝らの先
 祖等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我おあられて盲
 たまひけらく我誠ふあんぢらを眷ミ汝らをエラブトふて蒙る
 ふろの事を見たり我するハチ言り我汝らをエラブトの苦患の
 中より導き出してガナン人、ヘラ人、アモリ人、ヒビ人、エブ
 ス人の地すみはち乳と蜜の流るゝ地にのぼり至ら志めんとナ彼
 等あんぢの言に聽志たダムベシ汝とイスラエルの長老等エジプ
 トの王の時おいたりて之お言ヘヘブル人の神エホバ我らお臨め
 り然バ請ふわれらをして三日程同と曠野ふ入志めわれらの神エ
 ホバお犧牲をさよぐることを得せ志めよと我志るエジプトの
 王は假令能力ある手をくはぶるも汝等の往をゆるさきるべし

我すなへちわお手を舒べエジプトの中にお諸の奇跡を行ひてエジ
プトを擧ん其後クレ汝等を去志むべし三我エジプト人をしてこ
の民をめぐま志めん汝ら去る時手を空うして去るベカラす三婦
女皆の隣人とおのれの家ふ寓る者とお金の飾品銀の飾品およ
び衣服を乞へし而して汝らこれを汝らの子安に穿戴せよ汝等り
くエジプト人の物を取べし

第四章 一モーセ對へていひけるは然るダラ彼等我を信せず又わ
び言お聽かだびいすして言んニ水バ説ふあらいれたまひすどニ
ニ水バウれふいひたまひけるは汝の手ふある者は何るや彼い
ふ杖ありミニ水バいひたまひけるは其を地ふ擲よとするはち之
を地ふなぐる小蛇とありければモーセの前を過たりロエ水バ
モーセふいひたまひけるは汝の手をのべて其尾を執れとすみは
ち手をのべて之を執バ手ふいりて杖とるエエホバいひたまふ
きりセエホバまた言たまひけるは汝の手をふたよび懷にいれよ
と彼すみへちふたよび其手を懷にいれて之を懷より出し見るお
變りて他處の肌膚のごとくになるハニ水バいひたまふ彼等もし
汝を信せずまたろの最初の微の聲に聽從へさるあらを後の微の
聲を信せんれ彼らもし是ふたけの微をも信ぜずして汝の言に聽
従はざるあらバ汝の水をとりて之を陸地ふろよげ汝ダ河より
取たる水陸地にて血となるべしナモトセエホバにいひたまひけ
るいわゆ主よ我は素言辭に敏き人にあらず汝ダ僕に語りたまへ
るに及びても猶志る我ハ口重く香重き者なりナエホバうれふ

いひたまひける人の口を造る者は誰なるや啞者、聾者、目明者、瞽者などを造る者は誰あるや我エホバあるふあらすや十三然ば往けよ我なんかの口がありて汝の言ふべきことを教へん盡セーセいひけるわざ主よ願く汝遣すべき者をつらはしたまへ當是においてエホバモーセおむかひ怒を發していひたまひけるハレビ人アロンは汝の兄弟あるふあらすや我かき言を善するを知るまた彼あんちふ遇んとていで來る彼汝を見る時ふ喜ばん盡汝うれお語りて言をろの口お探くべし我なんかの口と彼の口がありて汝らの爲べき事を教へん盡彼なんちふ代て民お譲らん彼ハ汝の口に代らん汝ハ彼のためふ神お代るべしもあんちこの枝を手に執り之をもて奇蹟をおこなふべし是においてモーセゆきてろの妻は父エテロの許おかへりて之ふいふ請ふ我をして往てわダエラブトにある兄弟等の所にのへらぬめ彼等のゐ因生るガラ

へをるや否を見さしめよエテロモーセに安らに往くべしといふ丈爰ふエホバニテアンにてモーセにいひたまひけるハ往てエジプトにカヘれ汝の生命をもどめし入へ皆死たりモーセモーセすなれちろ社妻と子等をとり之を驢馬に乗てエラブトの地にかへるモーセは神の杖を手に執り三エホバモーセにいひたまひけるは汝エラブトにのへりゆける時ハラナラシ我おあんちの手に授けたる足あろの奇蹟を恐くハロのまへにおるなふべし但し我かれの心を剛復ふすれば彼民を去らめさるべし三汝ハロに言べしエホバかく言ふイスラエルはわざ子わざ家子あり三我あんちにいふ我お子を去らぬめて我に事ふることをえせしめよ汝もし彼をさら志むるてせを拒ば我あんちの子あんちの家子を殺すべしと言モーセ途にある時エホバかれの宿所にて彼に遇てころさんどまたまひけれどミサボラ利き石をとりてろの男子の陽の皮を割

あモモトセの足下あししたにあげうちて言ふ波なみのまことにわだために毛血けつの夫おとこあると是にあいてエホバ、モモトセをもるしたまふ此時チチ波はララお血けつの夫おとこといひしハ割禮はいけいの敵てきによりてなり毛髮け及エホバ、アロシシにいひたまひけるハ曠野あらのにゆきてモモトセを迎へよと彼かれすなれち白しろきて神かみの山さんにてモモトセに遇ひ之に接吻せくふんすエホバモモトセがエホバがおはれに言ふくめて遣おとしたまへる諸よ教きょう言こととニホバのぬのれに命めいをたまひし諸よ教きょう奇き跡せきとをアロンにつげたる至ま斯このてモモトセとアロジジ往むかてイスラエルの子孫ししゆの長老じようろうを盡つくく集めうむ年とし而めでしてアロンエホバ此モモトセにかたりたまひし言ことを盡つくくつゝ又また彼かれ民みんは目めのまへににて奇蹟きせきをなしけれを三さん民みんするするいち信しんす彼かれ等だエホバおイスラエルの民みんをカヘリミカヘリミ苦患くわんをあもひたまふを聞いて身みを下くだりて拜まつをあせり

第五章

一

二

三

エホバ斯スいひたまふ我われ民みんを去さる志しめ彼かれ等だを志して曠野あらのに於おて我われを祭まつることをえせ志しめよとニハロいひけるハエホバハ齋さいされぞぞ我われの聲こゑに志したまひてイスラエルを去さる志しむべき我われエホバを齋さいす亦よシスラエルスラエルを去さる志しめヒニ彼かれ言ことけるハヘブル人じん滅め刷はら我われらに顯あらわせたりまへり詣おほふ我われ等だを志して三さん日ひ程きよはと曠野あらのにいりてわれらは神かみエホバに犠牲ぎせいをささぐることをえせ志しめよ恐くはエホバ疫えき病びやくり又よ刃と兵ひつをもて我われらをなやましたまひんモエラブト王おうかれらに言ことひけるハ汝汝等だモモアロンあんアランそそ民みんの操作さざなを妨さまたぐるや往むかてあんあんちらは荷はを負うへエホバロロまたいふ土ど民みん今は多多くあり然しかばるに汝汝等だあれらをして荷はをあふあふとを止とどめんとすすカハロ此日ひ民みんを驅おとかふ者もの等だあよび民みんの有司ゆうし等だに命めいしていふセ汝汝等だ再なび前まへのごとく民みんに磚瓦はんわを造つる采う釋しを與よふべららす彼かれ等だをして往むかてミブムラ采う釋しをあけめしめよまだ彼かれ等だ前まへに造つりし磚瓦はんわは載のせざくに仍のれら

に之をつくりしめよ其を滅するあれ彼等は懶惰の故に我等を志して往てわれらは利に犠牲をさしあげ志めよと呼へり言ふありたり人の工作を重くして之に勞るしめよ然るに僕は言を聽みとあらヒテナ民を驅使ふ者等ぬよびろの有司等出ゆきて民にいひけるハヨウく言たまふ我あんちらに禾穀をあたへヒテ汝等往て禾穀のある處にて之をされ但しるんぢられ工作は分毫も滅さるべしと是において民逼くエラブトの地に散て草葉をあつめて禾穀どす吉駆使者あんちらを促たてゝ言ふ禾穀のありし時のごとく汝らは工作汝らは日々耕業をなしをふべしと吉ハヨの駆使者等ダイスラエルの子孫は上に立たるにてろは有司等撻れあんちら何予昨日も今日も磚瓦を作るをあらの汝らは業を前のおくに爲しをへきるやと言る是に於てイスラエルの子孫の有司等來りてハヨに呼はりて言ふ汝あん子斯侯等にあすやま僕等に禾穀せなんぢら尙敵のごとくに磚瓦を交納むべしと吉イスラエルの子孫の有司等汝等ろの日々につくる磚瓦を滅すべからずと吉るを開て災害の身におよぶを知りて被らハヨをゑひれて出たる時モーセとアロンの對面にたてるを見た色を三之にいひけるハ廟くハエホベ汝等を鑑みて鞠きたまへ汝等はわ色らの臭をバリの目と彼の儀の目に忌避れ色志め刃を彼等の手にわたして我等を殺さ志めんとするありとモーセ、エホバに返りて言ふわが主よ何て此民をあじく志たまふや何のために我をつかひしたまひしや主わダバロの許に來りて汝の名をもて語りしよりして彼

この民をあしくす汝また絶てんちの民をすくひたまひかるあり

第八章 —エホバモーセは言だまひけるは今汝わやバロに爲んど
みろの事を見るべし能ある手の加はるによりてバロ彼らをさら
しめん能ある手の加はるによりてバロ彼らを其國より遙いだすべ
しヨ神モーセに語りて之あいひたまひけるは我是エホバなり三
我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに顯れたり然ど我
名のエホバの事は彼等しらさりき。我また彼らとわダ契約を立て
て彼等を旅して寄居たる國カナンの地をくれらに與ふ。我また
エジプト人ダ奴隸とあせるイスラエルの子孫の呻吟を聞き且我
契約を憶ひ出づ。故にイスラエルの子孫に言へ私はエホバ
り我汝らをエジプト人の重役の下より擱出し其使役を止められ
しめ又腕をのべ大なる罰を因と爲して汝等を賜はん。セ我汝等を

取て吾民とあし汝等の神とあるべし汝等はわるエジプト人の重
擔の下より汝らを擱出したるあんぢらの神エホバあるみとを知
ん。我わざ手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブお與へんと誓ひ
し地に汝等を導きいたり之を汝等お與へて産業となさ志めん我
はエホバなりモーセらくイスラエルの子孫お語けれども彼等
は心の傷るど役事の苦きとの爲ふモーセに聽さりきナエホバセ
1セお告ていひたまひけるはま入てエジプトの王バロお語りイ
スラエルの子孫をの國より去ためよミモーセエホバの前お申
していふ。イスラエルの子孫既に我お聽す我は口か割禮をうけさ
る者あれを巴ロいりで我おきりんやミエホバモーセとアロンお
たり彼等お命してイスラエルの子孫とエジプトの王バロの所お
往おめイスラエルの子孫をエジプトの地より導きださ志めた
オふ古きれらの父の家々の長は左のごとしイスラエルの家子ル

バ
ンの子ヘノク、バル、ヘツロン、カルミ是等はルベンの家族なりシメオンの子エムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ソハル、およびカナ
ンの女おとこの生レシヤウル是らはシメオンの家族なりレビの子の名はろの世代に志たひて言を左のおとしケルシヨン、コハヌ、メラリ是ありレビの齡の年は百三十七年なりき老ケルシヨンの子はろの家族に志たダひて言をリブニおよびシメイありテコハヌの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルなりコハヌの齡の年は百三十三年ありき老メラリの子はマヘリおよびスルあり是等はレビの家族に志たダひて言をリブニおよびシメイありテアムラムの伯母ヨケベテを妻ふめされり彼アロンとモトセを生むアムラムの齡の年は百三十七年ありきニイツハルの子はコラ、子ベガ、ヨクリありミウジエルの子はミサエル、エルザバン、シラリありアロン、ナセヨンの弟アーナダブの女エリセバを妻ふめされり

彼ナダブ、アビク、エレアザル、イタマルを生む吾コラの子はアッヘル、エルカナ、アビアサフ、是等はコラ人の族ありアロンの子エレアザル、アテエルの女の中より妻をめされり彼ビギハスを生む是等はレビ人の父の家々の長にしてろの家族に循ひて言る者あり兵エホバダイスラエルの子孫を其軍隊に志たダひてエラブトの地より堪きだせよといひたまひしは此アロンとモトセあり云彼等はイスラエルの子孫をエシブトより導きださんとしてエラブトの王パロが語りし者にして即ち此モトセとアロンありエホバエラブトの地にてせうせに語りたまへる日ふ三エホバモトセふ語りて言たまひけるは我はエホバあり汝わダ汝はいふ所を恐皆くエラブトの王パロに語るべし三モトセエホバの前ふ言けるは我は口あ創禮を受ける者あれをパロいケで我ふ聽んやエホバモトセふ言たまひけるは視よ我汝を志てパロふ

あけるみと神のおとくあら志む汝の兄弟アロンは汝の預言者となるべしニ汝はわざ汝お命する所を盡く宣べし汝の兄弟アロンはパロに告ることを爲べし彼イスラエルの子孫をろの國より出するふ至らんミ我パロの心を剛復おして吾微き奇跡をエラブトの國ふ多くせん口然とパロ汝お聽さるべし我すなへち吾手をエラブトお加へ大ある罰を用せみして吾軍隊わざ民イスラエルの子孫をエラブトの國より出さんミ我わざ手をエラブトの上お伸てイスラエルの子孫をエラブト人の中より出す時おは彼等我的エラバあるを知んカモー七ミアロン斯おてひエラバの命ヒたゞへる如くあ然あし歎せうのパロど談論ける時モーセは八十三歳アロンは八十三歳ありきスエラバモーセミアロンに告て言た丈ひけるはカバロ汝等ふ語りて汝ら自ら奇蹟を行へど言時には汝アロンお言べし汝の杖をとりてパロの前に擧てよと其は蛇とあら

ルナ是お於てモー七ミアロンはパロの許あいたりエラバの命ヒたまひしごとくお行へり即ちアロンうの杖をパロとろの臣下の前ふ撫志ふ蛇とありぬカ斯在玄かバハロもまた博士と魔術士を召ませたるエラブトの法術士等もうの秘術をもてかくおる召めをせきりきエラバの言たまひ志如意エラバモー七ヘリ坐す即ち彼ら各入うの杖を投たれば蛇となりけるアロンの杖かれらの杖を看つくせり玄然るふパロの心剛復おありて彼らに聽みとをせきりきエラバの言たまひ志如意エラバモー七お言たまひけるはパロは心頑おして民を去志むるとを拒むありま朝あおよびて汝パロの前おいたれ視よ彼は水お臨む汝河の邊おたちて彼を逆ふべし汝うの蛇小化し杖を手おとりて居り矣彼お言ふべしハブル人の神エラバ我を汝おつけはして言志む吾民を去志めて曠野ふて我お事ふるみとを得せ志めよ視よ今まで汝は聽入さり志ありカエラバ久く言ふ汝あれによりて我ガエラバ

あるを知ん。或よ我わら手の杖をもて河の水を擊ん。是血ふ漫ずべし。而して河の魚は死ふ。河は奥くからん。エジプト人は河の水を飲みとを厭ふ。おいたるべし。エホバまたも一セに言たまはく汝アロンお言へ汝の杖をとりて汝の手とエジプトの上お伸べ。流水の上河々の上池塘の上一切の湖水の上お伸て血とあらぬめよ。エジプト全國に於て水石の器の中お凡て血ある。おいたらん。エモーセ、アロンすなはちニホバの命じたまへる。ごとくお爲り。即ち彼バロ。どうの臣下の前。おて杖をあげて河の水を擊て。河の水みな血小變せたり。是ふおいて河の魚死て。河臭くあり。エジプトの水を飲てとを得さりき。斯エジプト全國お血ありき。三エジプトの法術士等もろの秘術をもて斯のとどく行へり。バロは心頑固ふして彼等お聽みとをせざりき。ニホバの言たまひし如し。三バロ。すなれち身をめぐらして。うの家お入り。此事おも心を止めざりき。且エ

エジプト入河の水を飲みとを得さり志りを皆飲水を得んとて河の立なりを壇たり。エホバ河を擊たまひてより後七日たちぬ。第八章 エホバモトセに言たまひけるハ汝バロ。お諸りて彼お言へニホバ。かく言たまふ。吾民を去ためて。我お事ふてとを得せ。否めよニ汝もし去ためむるみとを拒ま。我蛙をもて汝の四方の境を。鶴さんミ河に駐むらざり。上りきたり。汝の家おいり。汝の寝室に。いり汝の牀に。のぼり。汝の臣下の家。おいり。汝の民の所。おいたり。汝の窟ふ。および汝の搢鉤。おいらん。是蛙。なんの身おは。ばり。汝の民と汝の臣下の上にのぼるべし。ミエホバモトセに言たまひく。汝アルに。言へ。汝杖をとりて手を流水の上に伸べ。河谷。比上。池塘の上。お伸て。蛙をエジプトの地に上ら。ためよ。アロン手をエジプトの水のうへお伸た。色を蛙のぼりきたり。エジプトの地を蔽ふ。エ法術士等もろに秘術をもて。欺みて。ひ蛙をエジプトの地に上ら。

志めたりハバロモーセアロンを召て言けるはエホバお願ひて
この蛙を我とわざ民の所より取さらしめよ我この民を去志めて
エホバお犠牲をさよぐることを得せしめんモーセバロお言け
るハ我あんちと汝の臣下と汝は民のためお願ひて何時此蛙を汝
と汝の家より絶さりて河にのを止らしむべきや我に布せと彼
明日といひけれどモーセ言ふ汝の言のごとくお爲し汝をして我
らの神エホバのとき者あきことを知志めんカ蛙汝と汝は家を
離れて汝の臣下と汝の民を離きて河にのを止るべしとモーセと
アロンするハチバロを離れて出でモーセのバロお至ら志めた
まひし蛙のためエホバお呼へり志にカエホバモーセの言のご
とくあしたまひて蛙家より村より田野より死亡たり吉凶あれ
を振むるお山をあし地奥くありぬ虽然にバロは嘘氣時あるを
見てろの心を頑固おして彼等小聽こどをせきりきエホバの言た
ロふ言ふ是れ神の指ありと然るハバロハ心剛慎にして彼等小聽

の杖を伸べ地の塵を打てエコブト全国お蚤とあら志めよと老彼
等斯あせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を擧けるお蚤
とありて人を畜ふつけりエシブト全國おおいて地の塵みる蚤と
ありぬ矣法術士等のの秘術をもて斯おみなひて蚤を田さんと志
たり志が能乞りき蚤の人と畜ふ着ぐま是おおいて法術士等バ
ロふ言ふ是れ神の指ありと然るハバロハ心剛慎にして彼等小聽
さりきエホバの言たまひし如しエホバモーセ言たまへく汝
朝早く起てバロの前に立て祓よ彼の水に臨む汝祓お言へエホバ
かく言たまふ己が民を去志めて我お事ふることを得せ志めよ
汝もしあダ民を去志めずば祓よ我汝と汝の臣下と汝の民と汝の
家とお嬢をおくらんエシブト人の家をお嬢充べし彼らの居る
とみの地も然らん三日の日お我わダ民の居るゴゼンの地を區

別おきて其處に炳あらためヒ是地の中ふありて我のエホバある
て是を汝ダ知ルためありミ我わる民と汝の民の間に區別をたて
ル明日はの微あるべし吾エホバかく爲たまひたれバ炳おびた
しく出来りてバロの家にいりるの臣下の家ありエラブト全國
ふいたり炳のために地害する事ふおいてバロモリセドアロン
を召していひタるは汝等往て國の中にて汝らの神に犠牲をさげよ
云モ一セ言ふ然するハ宜からず我等ハエラブト人の崇拜む者を
犠牲として以色列の神エホバに献ぐべ計是バなり我等もしエラ
ブト人の崇拜む者をうけ目の前にて犠牲にさげバ彼等石にて
我等を擊きちんやモ我等ハ三日路ほど曠野みいりて我らの神エ
ホバに犠牲をさげるの命じたまひしこくせんとすハロ言リ
るは我汝らを去志めて汝らの神ニホバは曠野にて犠牲をさぐる
高とを得せしめん但餘ふ遠くは行ベラち歩我ためお祈れよモ

四セ言けるは視よ我汝をもる見て出づ我エホバお祈ん明日炳
曰きるの臣下どろの民を離れん第バロ再び僞をおてる民を去
志めてエホバお犠牲をささぐるを得せしめざるが如きふとを爲
され早かくてモトセバロをはる見て出でエホバお祈りた色ハミ
エホバモ一セの言のごとく爲したまへり即ちの炳をバロと
の臣下どろの民よりはあき志めたまふ一ものふらさりき三然る
ふハロ此時にもまたろの心を頑固ふして民を去志めきりき
五九番一爰ホエホバモレセにいひたまひけるモバロの所ふいり
てクセに告よヘブル人の神エホバ斯いひたまふ吾民を去志めて
我おつかふることを文せ志めよニ汝もし彼等をさら志むるみと
を拒みて尙か色らを拘留へなたミエホバの手野にとる汝の家畜
馬、駒、馬、駒、駒、牛ぬよび羊ふ加はらん即ち甚だ惡き疾あるべしエ
ホバイステエルの家畜とエラブトの家畜とを別ちたまひんイス

ラエルの子孫に屬する者は死る者あらざるべしとエホバまた期をさだめて言たまふ明日ニホバの事を國ふあさんセカ明日ニホバの事をあしたまひなきエラブトの家畜を死り然どイスラエルの子孫の家畜は一も死ざりきセバロ人をつかはして見ざ志めたるにイスラエルの家畜ハ一頭だふも死ざりき然どもバロハ心剛愎おして民をさら志めざりきまたエホバモ一セビアロンふいひたまひなるハ汝等竈爐の灰を一撮と乞面してモ一セバロの前ふて天あむクひて之をまきちらすべし其灰エラブト全國に塵となりテエジプト全國の人と畜獸ふつき臘をもちて脹るゝ駕動とならんとナ彼等すゑぞち竈爐の灰をどりてバロの前に立ちセ一セ天にむろひて之をまきちらしけ至人と畜物につき臘をもちて服るよ駕動とあれもナ法術士等はろれ種物せためにモ一セは前に立つみとを得ざりき種物は法術士等より

志て諸のエラブト人にまで生じたり三然セニホババロハ心を剛愎にしたまひた邑バ彼らふ聽ざりきエホバのモ一セお言給ひし如し善爰ホエホバモ一セふいひたまひけるハ朝早くおきてバロの前にたちて彼お言ヘブル人の神エホバ斯いひたま上吾民を去志めて我に事ふるを文せ志めよ書我此度わダ諸の災害を汝せ心とおんぢの臣下およびおんぢの民お降し全地お我ごとき者あるため即ちおんぢを志てわざ權能を見ざ志めわざ名を全地お傳へんためあり汝お知志めん盡我もしわタ手を伸べ疫病をもて汝とるや貴祝よ明日の今頃我はなはだ大なる電を降すべしはエジプトの開國より今までお嘗てあらざりし者なり光然を人をやりて汝の家畜および凡て汝の野ふ有る物を集めよ人も獸畜も凡て

野のありて家ふ歸らざる者ハ電うの上ふりくだりて死る。ひ
たらん。エバロの臣下の中エホバの言を畏る者ハの僕と家畜を
家畜を野ふ置り三エホバモトセ。あいひたまひけるハ波の手を天
あ舒てエジプト全國ふ電、あらためエジプトの國中の人と獸畜と
電をエジプトの地お降せたまふ。斯電ふり又火の塊電か繼りて
降る甚だ厲しエジプト全國ふ。其國を成てよりみのかた未だ斯
る者あらざりしる。電エジプト全國ふ。於て人と獸畜とをいひ
す。凡て田圃ふをる者を擊り電また田圃の諸の電を擊ち野の諸の
樹を折り云々。イスラエルの子孫のをるゴセシの地ふ。電わらさ
りき。是ふ於てバロ人をつかむしてセトセトアロンを召てみ是

ふ言々るは我此度罪ををかしたりエホバの義く我とわざ民の惡
し云エホバ。ふ願ひてみの利鳴。電を最早あれにて是法めよ。我な
んちらを去志めん。汝等今は留る。ふ。よばす。元モセ。か色ふ。いひ
ける。我邑より出で我手をエホバに舒ひろ。けん然。電やみて電
かさねてあらざる。以し斯して地はエホバの所屬あるを汝に。我ら
志めん。卓然と我志る。汝どもんの臣下等は。あはエホバ神を畏
きる。ふらん。三倍麻と大麥は。畢竟たり。大麥の穗いで麻の花さき
か。さねて。あらざる。三と小麦と。穀麥。未だ長さり。方によりて。擊色さ
き。モセ。セバロをはる。色て。邑より出で。エホバにむきびて手を
の。べひろげた。色を。雷と電やみて雨地にふらす。ありぬ。昌然る。れバ
ロ。雨と電と雷鳴のやみたるを見て復も罪を犯し。其心を剛硬にす
彼もろの臣下も。然り。蒙即ちバロは心剛復に志て。イスラエルの子
孫を去志め。さりき。エホバのモトセによりて。言たまひしみとし

我哉十
一爰にエホバモレシにいひたまひけるハヨの所に入世
かれの心せらの臣下の心を剛硬にせり是れわれ此等の徹を彼
等の中に居さんためニ又あんちをして吾ダエロブトにて行ひ事
事等するへち吾ダエロブトの中にておしたる徹をあんちの子と
なんちの子の子の耳に語らためんためあり斯して汝等わダエホ
バなるを知ベシミモセとアロン、ハヨの所みりて彼あいひけ
るはヘブル人の神エホバかく言たまふ何時まで汝ハ吾に降るム
ミを拒むや我民をさらためて吾事ふることを文せ志めヨロ汝
もしわグ民を去志むることを拒まバ明日我蝗をあんちの境あ
来めんキ蝗地の面を蔽て人地を見るあたれざるべし蝗々の兎か
れてあんちに遣れる者すなばち雹に打ちされたる者を食ひ野
お汝らのためお生る諸の樹をくらほんナ又あんちの家とあんち
の臣下は察々および凡れエロブト人れ家に漏べし是はあんちに

父とあんちの父の父が世れいてしまり今日にいたるまで未だ嘗
て見ざるもの有り遂斯て彼身をあそらしてハヨは所よりいでた
リセ駕はハヨの臣下ハヨおいひけるハ何時まで此入われらの羅
ビするや人ををさち宏めてロ社神エホバお事ふるてどを文せ志
めヨ汝なはエロブト滅ぶるを知ざるやどス是をもてモ清セと
アロシ本たまむ召邑でハヨの詩にひたるにハヨうれらにいふ往
事あんちあ社神エホバお事へま但し往く者ハ誰と誰なるモル
目せいかけるは我等の幼者をも老者をも子息をも息女をも擊へ
て往キ羊を毛牛をもたづさせて往くべし其れ我ちエホバの祭禮
をなさんとす邑をなリハヨかきぢれいひけるハ我汝等とあん
ちの子等を去志むる時のエホバあんちらと偕に在モ慎めよ惡き
事あんちらの面は空へにありさるは宜クらす汝ら男子の三往て
エホバに事よ是あんちらが求むるところなりと彼等つひにハヨ

の前より遅いださる。爰にエホバ、モーセがいひたまひけるハ汝の手をエラブトの地にうへに舒て、蠍をエラブトは國にの予せして彼に電打残したる地の畠の蔬を悉く食ため。且田土もすなれちエラブトの地の上にろの杖をのめければエホバ東風をあこしてろの一日一夜地にふら志めたまひしが東風朝におよびて蠍を吹きたうて青蠍エラブト全國の子をエラブトの四方の境に居て害をなすてと太甚し是より先にハ斯のぞとき蠍なりし是より後にあらざるべし。蓋全國の上を蔽ひけとば國暗くるあり而して蠍地の諸の蔬おまび電の打残せし樹の葉を食ひたればエラブト全國ふ於て樹ふも田園は蔬ふも青き者とてハのこらさりき。其堤をもてハロ急ぎモーセとアロンを召て言ふ我るんぢらの神エホバと汝等とにむかひて罪ををかせり。然ば詣ふ今一次のみ吾罪を宥めてなんぢらは神エホバ小願ひ。唯此死を我より取

はあさまめよど被するハちハロの所より出てエホバにねダひ母をば。エホバは。否はだ強き西風を吹めやらせて蠍を吹はらはしめ之を紅海ふ難いれたまひてエラブトは四方に境ふ蠍ひどつも還らざるふいたきり。然きともエホバ、ハロは心を剛強にあたまひた色をイスラエルの子孫をさらあめざりきニエホバ、またセレセ。あいひたまひけるハ天ふむかひて汝の手を舒べエラブトの國ふ黑暗を起すべし其黒暗れ摸るべきありと三モーセするハち天にむかひて手を舒けそぞ稠密黒暗三日があひだエラブト全国ふありて三日之間ハ人々たゞひふ相見るあたひす又おの色の處より起ものあかりき然とイスラエルの子孫の居處ふは皆光ありき旨はお旅てパロモーセを呼ていひけるハ汝等もきてエホバに事よ。唯あんぢらの羊と牛を留めおくべし汝らの子女も亦なんぢどもに往へし云々。いひけるハ汝また我等の神エホバに

獻ぐべき犠牲と燔祭の物をも我等に與ふべきなり云わきらば家畜いのちもわきらどもふ往むかひへし一躡ひとくつも後あとふれぬすべからず其そのハ我等ろは中なかを取とてわきらの神エホバエホバに事ことべきダ故ゆゑありまたわきら破處はぢにいたるまで何なんをもてエホバエホバに事ことふべきかを知しさきをありと毛然まぜぬ色ともエホバエホバの心を剛愎ごうひにしたまひた色いろバロバロの色らをさらあむることを告おほせせりき云いすなれちバロモレセ言いふ我われをはる色いろ去よ自り慎つつまめ重うてわが面おもてを見るゑる色いろ淡うすわが面おもてを見る日ひ死死べしエホバエホバいひけるハ汝汝の言いふとゐろい善よし我われ重うて復かるんのの面おもてを見みさるべし

第十章

二

エホバモレセ言い

ふ

我われ

を

は

る

色いろ去よ自り慎つつまめ重う

て

わ

が

面おもて

を

見み

さ

る

べ

し

の節具しやくぐを乞こ志しめよ是三エホバエホバつひに民みんをしてエジプト人じんの恩おんを蒙もよらためた汝汝又またのの人モレセハエジプトの國くににて巴バロは臣しん下かの目めと民みんの目に甚ひそだ大おほある者ものと見みえたりセモ十じセいひけるハエホバエホバあく言いたまふ夜半頃よはんご見み出てエジプトの中なかか至しらんルエジプトの國くにの中なかの長子おさこたる者ものの位くわいお坐すする巴バロの長子おさこより唐とうの後あとにをる姪めいは長子おさこで悉悉く死死へし又また獵畜りきじゆの首くび出だも志しあり大おほ而がくしてエジプト全國ぜんこくお大おほなる號哭ごうくあるべし是まで是のおとき事ことへあらずまた再またび斯まるみと有あきるべしと然しかとイオラエルの子孫ししゆふむひてハ夫おとこもろは舌したをうおらさし入いふむろひても獸畜けいじゆにむろひても然しかり汝汝等らみ色いろによりてエホバエホバエジプト人じんとイオラエルのあひだに區別くべつをなした汝汝を知しべしエ汝エホバの此この臣しん等らみなわグ清きよに下くだり來くわてわきを拜まし汝汝とふんふんなに從なダふ民みんみな出だまと言いふ然しかる後あとわき出だべしと烈烈しく怒のりてバロバロの所ところより出だたりたエホバモレセ

ふいひたまひけるはパロ汝に聽さるべし是をもて吾ダエジプトの國に奇蹟をおあふれ増べしモーセアロンの諸は奇蹟をことくパロの前に行ひたまどもエホバパロの心を剛強に志たまひける彼イスラエル之子孫をろ北國より去來めざりき

- エホバエジプトの國おてモーセとアロンに告ていひたまひけるは此月を汝らの月の首とせ汝ら是を年の正月となすべしミツラ等イスラエルの全會衆お告て言べし此月の十日お家の父たる者おのく羔羊を取べし即ち家おとふ一箇の羔羊を取べし口もし家族少くして其羔羊を盡すふとあたひずをの家の鄰ある人ともふ人の數ふ志たゞひて之を取べし各人の食ふ所ふ志たゞひて汝等羔羊を罰るべしミツラの羔羊は疣るき當燕の壯なるべし汝等編羊あるひは山羊の中よりあれを取べし六面し

て此月の十四日まで之を守りおきイスラエルの會衆みる薄暮に之を屠り七うの血をとりて其之を食ふ家の門口の兩旁の櫛と鶴居小祓へし而して此夜ろの肉を火ふ炙て食ひ又酔いれぬパンや苦菜をろへて食ふべし其を生ふても水お煮ても食ふるくれ火ふ炙べし其頭と脛と臍臍也を皆くらへヤ其を明朝まで覆しあくあれ其明朝まで獲れる者は火ふて焼つくすべしるんぢら斯之を食ふべし即ち腰をひきうらげ足ふ鞋を穿き手お杖をとりて急て之を食ふべし是エホバの逾越節あり吉是夜われエジプトの國を巡りて人と畜とを詣エジプトの國の中の長子たる者を盡く擊殺し又エロアトの諸の神お罰をうむらせん我是エホバあり主の血るんぢらが居るてこの家の家ありて汝等のためふたるし記號とあらん我血を見る時ふんぢらを逾越すべし又わダエジプトの國を擊つ時炎ふんぢらふ降りて滅ぼすふとなくるべし吉汝

ら是日を記念えてエホバの節期とるし世々あれを祝ふべし汝等之を常例とすして祝ふべし且七日の間酵いれぬパンを食ふべしろの首の日エハシ酵を汝らの家より除け凡て首の日より七日までエ酵入たるパンを食ふ人はイスラエルより絶るべきあり其首の日ふ聖會をひらくべし又第七日も聖會を汝らの中あ開け是ふたつの日おは何の業をもるすべからず只各人の食ふ者のみ汝等作るみどを得べしも汝ら酵いれぬパンの節期を守るべし其は此日ふ我みんちらの軍隊をエジプトの國より導きいたせばあり故ふ汝ら常例とお去て世々是日をまもるべし大正月に於て三の月の十四日の晩より同月の二十一日の晩まで汝ら酵いれぬパンを皆イスラエルの聖會より絶るべしモ汝ら酵いれたる者は何をも食へ大七日の間ゐんちらの家エハシ酵をおくべからず凡て酵いれたる物を食ふ人は其異邦人たると本国に出生れし者たるとを問ず皆エハシ酵を食ふ事無き故也

食ふべからず凡て汝らの居處に於ては酵いれぬパンを食ふべし是ふ於てモーゼ、イスラエルの長老を盡く召ねきて之をおいふ汝等の家族ふ循ひて一頭の羔羊を捨み取り之を屠りて逾越節のためお備へよ三又牛膝草一束を取て盆の血をお温し盆の血を門口の隅居および二旁の柱ふろよぐべし明剣おいたるまで汝等一人も家の戸をいづるるタレ三其はエホバエジプトを擊お通りたゞふ時鴨居と兩旁の柱に血のあるを見セエホバ其門を逾越し殺滅者を去て汝等の家ふ入りて擊さらためたゞふべけれありモ汝ら是事を倒さるして汝とるんちの子孫永くみれを守るべしモ汝等エ逾越節の祭祀ありエホバエジプト人を擊たまひし時エジプトに

をるイスラエルの子孫の家を逾越てわざらの家を救ひたまへり
と民するはち箱て拜せり云々イスラエルの子孫去てエホバのセ
セセアロンに命じたまひしおとくあるし斯のみるへり爰ふエホ
バ夜半エジプトの國の中の長子たる者を位坐する巴ロの長
子より牢獄ある俘虜の長子まで盡く蒙たまふ亦家畜の首生も
未かり乎斯有志を巴ロどろの諸の臣下あよびエジプト人みる
夜の中ふ起あたりエジプトに大る號哭ありき死人あらざる家
あらりければありミハロすふれち夜の中ふモ1セアロンを召
ていひけるは汝らどイスラエルの子孫起てわダメの中より出さ
り汝らダいへる如くお往てエホバに事へよ三亦ふんちらだ言る
おとく汝らの羊と牛をひきて去れ汝らまた我を祀せよと是があ
いてエジプト人我等みる死ると言て民を催逼て速々に國を去る
めんせしりを昌民捗行の未だ酵いれざるを執り捗盤を衣服に

包みて肩ふ負ふ量而してイスラエルの子孫モ1セの言のおとく
爲しエジプト人ふ銀の飾物金の飾物および衣服を乞たるふ
本バエジプト人を志て民をめぐため彼等ふあれを與へ志めた
立ふ斯られらエジプト人の物を取り毛斯てイスラエルの子孫ラ
メセスよりスコテふ進み志を外に徒にて歩める男六十萬
人ありき云々又衆多の寄集人ふよび羊牛等はるはだ多の家畜彼等
どともに上れり三愛ふ後エジプトより携へいでたる捗行をも
も備へさり志ふ因る翠碧イスラエルの子孫のエジプト小住居し
るの住居の間は四百三十年ありき四百三十年の後おいたり即
ち其日ふエホバの軍隊みるエジプトの國より出たり是はエホ
バ彼等をエジプトの國より堵きいだ志たまひし事のため小エ

エホバの前お守るべき夜あり是はエホバの夜おしてイスラエルの子孫皆世をまもるべき者ありエホバモトセビアロンふ言たまひけるは逾越節の例は是のおどし異邦人はみ色を食ふべから歩番但し各人の金にて買たる侯は割禮を施して然る後是を食志むべし国外の客あよび傭人は之を食ふべからず異一の家にてみ色を食ふべしろの肉を歩も家の外に持ひづるみ色又其骨を折べりらず見えイスラエルの會衆みる之を守るべし異邦人あんちどもに寄居てエホバの逾越節を守らんとせ在其男悉く割禮を受て然る後小近りて守るべし即ち彼は國に生きたる者のごとくあるべし割禮をうけざる人はみ色を食ふべからざるあり則國に生きたる者にもまた彼らの中に寄居る異邦人にも此法は同一あり平イスラエルの子孫みみ斯おみゑひエホバのモトセビアロンに命じなまひしおとく爲たり三の同じ日おエホバイスラエル

ルの子孫をろの軍隊に志たるひてエリヤトの國より導きいだしたまへり

爰にエホバモトセに告ていひたまひけるは二人と畜とを論す凡てイスラエルの子孫の中の始て生きたる首生をぞ皆聖別て我に歸せしむべし是わが所屬み色をありモトセ民にいひけるハ汝等エロブを出で奴隸たる家を出るこの日を記文よエホバ能ある手をもて汝等を此より導きいだしたまへゑあり酔い色たるパンを食ふべからずヨアヒムの月の此日あんぢら出ブエホバ汝を導きてカナン人ヘテ人アセタ人ヒヒ人エオス人の地すゑはちろの汝にあたへんと汝の先祖たちに語ひたまひし彼乳と蜜の流るよ地お至らためたまひん時あんぢ此月に是禮式を守るべしカ七日の間あんぢ酔い色ぬパンを食ひ第七日にエホバの節筵をあすべじセ酔い色ぬパンを七日くらふべし酔い色たるバ

ンを汝の所ふおくみるゝ又汝の堤の中に汝の詩おパン醸をかくるかき汝の日に汝の手あ用して言へし是れ吾がエジプトより出る時ふエホバの我ふ爲したまひし事のためありと汝は是をあんちの手ふおきて記號とし汝の目の間ふおきて記號とみてエホバの法律を汝に曰ふ在在ムベシ其はエホバ能ある手をもて汝をエジプトより導きいだしたまへをなりナ是故ふ年々ロハ期おいたりてあれ倒を定めるべしサエホバ汝どあんちは先祖等ふ誓ひたまひしおとく汝をガナシ人の地にみちびきて之を汝に與へたまへん時ミ汝凡て始て生きたる者および汝の有る畜の初生を悉く分ちてエホバふ歸せ志むべし男牲ハエホバの所屬するべしミ又驅馬の初子ハ皆羔羊をもて贋ふべしし贋はすそろの頭を折るべし汝は子等は中れ長子ある人はみな贋ふべし古後ふ汝は子汝ふ問て是ハ何あると言をこれに言ベシエホバ能ある

手をもて我等をエジプトより出し奴隸たりし家より出したまへり當賄ハロ剛強にして我等を去志めさりしか走エホバ、エジプトの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺したまへり是故に始めて生れし壯を盡くエホバふ犧牲ふ獻を但じわ荀子等は中れ長子れ之を贋ふより是をあんちの手にあきて號をし汝は目け間ふおきて篩どるすべしエホバ能ある手をもて我等をエジプトより導きいだしたまひたれどなりば諸神が汝民をさらばめし賄ベリシテ人の地へ遁る村邑とも神使等をそちびきて其地を通りたまひき其れ民戰争を見ば悔てエジプトお歸るあらんと神おもひたまひたれをありま神紅海れ曠野の道まも民を擧きたまふイスラエルの子孫行伍をたてテエジプトの國より出づ其勝モーセのヨセフの骨を携ふ是れヨセフ神から少候らを容たまふべければ汝らわダ骨を此より携へ出いづ

べしといひてイスラエルの子孫を聞く無せた色があり三斯てく
れちスコテより進みて曠野の端あるエクムふ幕張すニエホバ
れらの前お往たまひ盡れ雲の柱をもてり色を碧き夜の火の柱
をもて彼を照して晝夜往すゝましめたまムニ民の前盡れ雲
の柱を除きたまへず夜の火の柱をの予きたまへず

第三回 集にエホバモセに告ていひた安ひけるニイスラエルの子孫言て轉回てミガオル御社間あるヒムヒロテ前れ
あたりてハアルセボンの前幕を張出めよ其にむりひて海の傍
に幕を張るベシニハロ、イスラエルの子孫は事をあたりて彼等い
ろの地に迷ひをもて曠野に閉じめられたるあらんといふべけれ
をなり我ハロの心を剛毅にすべけれをハロ彼等の後を追へん
我ハロどろれ凡の軍勢は由て譽を得エロブト人を志て吾エホバ
なるを知あめんと彼等守なれち斯なせり無勢に民の逃さりたる

ムビエラブト王お聞えけれどハロどろの臣下等民の事あれきて
心を變じて言ふ我等何て斯イスラエルを去志めて我お事さら志
むるがおき事をなしたるやどハロすわいちらの車を備へ民
を將て己に志め選抜の戰車六百輛ふエラブトの諸の
戰車おまび其の諸の軍長等を率めたりハエホバエラブト王ハロ
の心を剛毅にしたまひたれを彼イスラエルの子孫の後を追ふイ
スラエルの子孫は高らかある手によりて出立ありテエラブト人
等の馬車おまびろの騎兵と軍勢彼等の後を追てろのハアル
セボンの前あるヒムヒロテの邊にて海の傍に幕を張るお追つけ
リナバロの近よりし時イスラエルの子孫目をあげて觀しみエジ
プト人己の後お進みきたり志々を痛く懼れたり是お於てイスラ
エルの子孫エホバに呼號り且モーセに言けるハエラブトふ幕
のあらざるがために汝われらをたづさへいだして曠野に死志む

るや何故に汝われらをエジプトより導きいたして斯われら杖爲や吉我等エジプトにて汝に告て我等を棄めき我らを志てエジプト人に事始め上思言し言ひ是あらすや其ハ曠野にて死るよりもエジプト人に事るれ甚ればあり吉モ一セ民にいひける汝ら櫛るゝあられ立てエホバ苟今日汝等のために爲たまへんとエホバの救を見よ汝らダ今日見たるエジプト人をバ汝らうなねて復あれを見てと絶てあらるべきあり吉エホバ汝等のために戰ひたまへん汝等の静りて居るべし蓋時にエホバモ一セあいひた安ひける汝あん予我に呼ひるやイスラエルの子孫ふ言て進ミゆカ志めよ汝杖を舉げ手を消の上に伸て之を分ちイスラエルの子孫を志て海の中は乾ける所を往志めよ志我エジプト人せ心を剛慎にすべけれ彼等の後に志たダひて入るべし我ろくしてバヒとろの諸の軍勢およびろの戦車と騎兵ふ因て榮譽を得ん志我

古バヨミロの戰車と騎兵とによりて榮譽をえん時エジプト人の我のエホバあるを知ん爰爰エイスラエルの陳營の前お行る神の使者移りてろの後に行けり即ち雲の柱ろの前面とはなれて後に立チエジプト人の陳營とイスラエル人の陳營の間に至りけるる彼おため云とあり晴とあり是ダためにハ夜を照せり是をもて彼とは夜は中お相近づあさりきミモ一セ手を海の上ふければエホバ終夜強き東風をもて海を退み志め海を陸地とあしたまひて水達お分れたりミイスラエルの子孫海は中の乾ける所を行くお水は彼等の右左ふ壁とあれりミエジプト人等バヨの馬車騎兵みるの後に志たダひて海の中に入る旨曉ふエホバ火と雲との柱の中よりエジプト人の軍勢を望ミエジプト人の軍勢を憚めしミ其車の輪を脱して行に重くあら志めたまひけとバエジプト人言ふ我等イイスラエルを離きて逃ん其のエホバかきらのた

めにエジプト人と戰へをありと云。時にエホバセラセに言たまひける。汝の手を海の上に伸て水をエジプト人どろの戰車と騎兵の上に流せ反らためよとモーセすみれち手を海の上に伸けるに夜明におよびて海本の勢力にかへりたまエジプト人之に遂びて逃たり。左エホバエジプト人を海の中に擱ちたまへり。即ち水流反りて戰車と騎兵を覆ひ。イスラエルの後に走たまびて海にいりしバロの軍勢を悉く覆へり。一人も遺れる者あらざりき。然どイスラエルの子孫は海の中の巻ける所を歩きし。苟水はるの右左に墻と並き。ヨブスエホバ乙の日。イスラエルをエジプト人の手より救ひたまへり。イスラエルはエジプト人に爲たまひし大見る事を見たり。是に於て民エホバを畏き。エホバどろの侯モーセを信ヒたり。

是に於てモーセおよびイスラエルの子孫。この歌をエホバに謳ふ。云く我エホバを歌ひ頌ん。彼は高ちかに高くいます。あり彼は馬どろの乗者を海にあげうちたまへり。ニわダメカハ。歌はエホバなり。彼のわダメカハ。激搔どりたまへり。彼はわダメカハ。見たり。三イスラエルまたエホバ。エジプト人に爲たまひし大見る事を見たり。是に於て民エホバを畏き。エホバどろの侯モーセを信ヒたり。

美ん彼はわダメカハ。の刺あり。我こそを崇めん。三エホバは軍人にし。て其名はエホバ。も。四。彼バロの戰車どろの軍勢を海に投すてたまふ。バロの勝きたる軍長等は紅海に沈めり。五大水うちを淹れて。彼等石のひとくに淵の底に下る。大エホバ。よ汝の右の手は力をもて。榮光をあらへず。エホバ。よ汝の右の手は敵を碎く。七汝の大なる榮光をもて汝。汝にたち逆ふ者を滅したまふ。汝怒を覆す。邑を彼等は糞のみとくに焚つくさる。汝の鼻の息によりて水積み。さる。浪堅く立て岸のみとくに成り。大水海の中に凝る。九敵へ言ふ。吾追て追つき掠取物を分たん。我かきらに因てわダメカハ心を徳。存めん。

我劍を抜んわグ手の乞らを亡さんと汝氣を吹たまへを海の乞
らを覆ひて彼等ハ猛烈き水に鎗のおどくに沈めり士エホバより神
の中に誰汝に如ものあらん誰も汝のおとく聖して榮あり讚へ
くして威ありて奇事を行ふ者あらんや士汝の右の手を伸た
まへ心地のきらを昏ひ汝へろの頗ひし民を恩惠をもて導き汝
の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ古國今ノ民聞て懶へ
サリセスに住む者畏懼を懷くヨアヒムの君等驕きモアブの剛者
戰懶くカナシに住る者ミナ消うせんま畏懼と戰懶のきらに及ぶ
汝の腕の大なるがために彼らハ石のおどくに厭然たりエホバよ
汝の民の通り過るまで汝の買たまひし民の通過るまで然るべし
老汝民を導きてこれを汝の產業は山に植たまはんエホバよ是す
あれち汝の居所せんとて汝の設けたまひし者あり主よ是汝の
手に建たる聖所ありエホバハ世々眼るく王たるべし主耶バロ

の馬との車および騎兵とももお海にいり志エホバ海の水と彼
等の上お流れ還ら本めたまひシダイスラエルの子孫は海の中に
ありて旱地を通れり三時みアロンの始る預言者ミリアム讃を
手ふどるに婦等みる彼小走たゞひて出で鬱をとり且踊るミニア
ムするはち彼等に和へて言ふ汝等エホバを歌ひ頌よ彼は高ら
うに高くいますあり彼は馬との乗者を海お擺ちたまへりと三
欺てモーゼ紅海よりイスラエルを導きてシユルの曠野わいり嘆
野に三日歩みたり左タガ水を得さりき三彼ら遂にメラ斐いたり志
ダメラの水苦くして飲ことを得さりき是をもて其名はメラ(苦)と
呼る旨是お於て民モーセおむりひて攻き我等何を飲んかと言け
れを量モーセエホバに呼びしふエホバ云々に一本の木をあらし
たまびたれを則ちあれを水お扱いれしふ水甘くあれり彼處にて
エホバ民のために法度と法律をたてたまひ彼處にてこれを試み

て云言たまはく汝もし善く汝の神エホバの聲お聴本たダヒエホバの目お善と見ることを爲しろの誠命お耳を傾けるの諸の法度を守ぞ我旦ダエロアト人に加へしところのろの疾病を一も汝に加へざるべし其れはエホバにして汝を醫そ者あれをありと云斯て彼等エリムふ至り其處に水の井十二棕櫚七十本あり彼處みて彼等水の傍わ幕張す

請問八章 斯てエリムを出たちてイスラエルの子孫の會衆るのエロブトの地を出しより二箇月の十五日お皆エリムとセナイの間あるシルの曠野おいたりけるがニ其曠野においてイスラエルの全會衆モーセとアロンお向ひて咳けりミ即ちイスラエルの子孫かれらお言けるは我等エロブトの地お於て肉の鍋の側に坐り飽までおパンを食ひし時おエホバの手およりて死たらを甚りし者を汝等はこの曠野に我等を導きいだしてこの全會を飢ふ死め

んとするあり日時ふ土ホバモ一せお言たまひけるハ視よ我パンを汝らのためお天より降さん民いで日用の分を毎日飢ひべし期して我かきらダ吾の法律お志たゞふや否を試みんモ第六日ふは彼等の取いたる者を調理すべし其は日々に飢る者の二倍あるべしモ一セとアロン、イスラエルの全の子孫に言けるは夕にいたらば汝等はエホバお汝らをエロブトの地より導きいだしまたまひしなるを知にいたらんセ又朝にいたらモ汝等エホバの榮光を見ん其はニホバあんぢらモニホバお向ひて広くを開たまへ在あり我等を離とふして汝等は我等おむクひて咳くやモ一セまた言けるはエホバ夕には汝等お肉を與へて食ひしめ朝にはパンをあたへて飽ゑめたまはん其はエホバ己にむきひて汝等ダ咳くとみろの懲言を開給へをあり我等を離と爲や故等の懲言は我等にむきひてするわ非常エホバにむかひてするありモレセア

ロンに言けるハイエラエルの子孫の全會衆ふ言へ汝等エホバの前お近よれエホバあんちらの遺言を開給へりとナアロンするわちイスラエルの子孫の全會衆ふ師友かを彼等曠野を望むエホバの榮光雲の中お顯はるエホバモーセに告て言た事ひける汝三我イスラエルの子孫の遺言を開り彼等お告て言へ汝等夕べ肉を食ひ朝あハシに飽べし而して我のエホバおして汝等の神ある汝を知にいたらんと主即ち夕におまびて鶴きたりて營を覆ふ又朝におまびて露營の四圍におきしが吉ろのあける露乾くにあたりて曠野の表ふ霜れでとき小き聞き者地にあり主イスラエルは子孫み色を見て此れ何予やと互ふ言ふ其のろの何たるを知さ色をみモ一セかれらふ言ける以是エホバお汝等は食ふあたへた汝ふパンあり矣エホバの命じたまふとみろの事ハ是あり即ち各うは食ふとみろふ循ひて之を歎め汝等は人懶ふ友たびて

一人に一方メルを取れ各人の天幕ふをる者等のためあみ色を取へしモイスラエルは子孫かくもせしれ其歎るとみろに多き足少きとあり宏お大方メルをもてお見を量るに多く歎めし者にも餘るどみろ無く少く歎めし者ある是故とてろ無りき若ろの食ふみろに循ひて之を歎めたりモ一セ彼等は誰も朝までみれを残しおく可らずと言り専然に彼等モ一セに聽友たるは少志て或ひこれを朝まで獲したり宏お見たよりて臭ありぬモ一セこれをお怒る三人を各の食ふてろふ循ひて毎朝お之を歎め志が日熱な色バ消ゆ三第六日おいたりて人々二倍のパンを歎めたり即ち一人に二オメルを歎むるに會衆は長者きたりて之をモ一セに告ぐ三モ一セあ色らに言ふエホバの言たまふとみろ是のござし明日はエホバの聖安息日にして休息あり今日汝等歎んでする者を焼き煮んとする者を煮よ其殘る者は皆明朝まで藏めおく

べし。旨彼等モ生れたの命せしとくに豊朝まで攝めおきしも奥々ある。あと無く又蟲もろのち小生せざりき三モ一セ言ふ汝等今日其を食へ今日エホバの安息日。されば今日汝等て是を野に獲さるべし云六日の間汝等これを歎むべし。第七日は安息日。邑をの日には有ざるべし。元然るに民の中に七日お出て歎めんとせし者ありしも得どふろ無り。是ふおいてエホバ、モーセふ言た。おひけるは何時まで汝等は吾の誠命とわざ律法を守るものとをせざるや。汝等那観よエホバ。おんぢらか安息日を賜へり故に第六日お二日の食勝を汝等ふあたへたまふ。是汝等のくろの處。お休みを乞第七日おいろの處より出る者あるべららず。是民第七日に休息り。三イスラエルの家ろの物の名をマナと稱り。是耶穌の實れごとくにして白くおおあらはし。をいたる葉子のごとし。モーセ言ふ。エホバの命ヒたまふと。是れどし。是を一オメル盛。

て汝等の代子孫のためにたくはへあくべし。是のわゆる汝等をエコアトの地より導きいだせし時。に曠野にて汝等を養ひしとて。のパンを之に見さしめんため。あり。而してモーセ、アロンに言。ける。壺を取て。中にマナ一オメルを盛て。色をエホバの前に。おき。汝等は代々の子孫のためにたくはふべし旨エホバのモーセに命じたまひし。如くにアロンてきを律法の前。おきてたぐ。ふ。ヨイスラエルは子孫へ入れ住る。地。お至るまで。四十年。間。マナを食へり。即ちカナンの地の境にいたるまで。マナを食へり。云。オタルはエバは十分。一。ふり。

ヨイスラエルは子孫。れ。會衆。エホバの命は志たがひて。皆レシの曠野を立出で。旅路をかさねて。レビテムに。幕張せ。太。ダ。民。は。飲む水。あらざりき。ニ。是をもて。民モーセ。ビ。争ひて。言ふ。我等。お水をあたへて。飲あめよ。モーセ。くれらに。言ける。汝ら。何ぞ我とあらぶ。

や何テエホバを試むるや三彼處にて民水に渴き民モーセはむり
ひて嘆き言ふ汝を殺て我等をエジプトより導きいだして我等を
われらは子女とわざらは家畜を渴ふ死末めんとするや是れがお
てモーセ、エホバに呼へりて言ふ我ニ民ニ何をなすべきや彼等
ハ殆ど我を石にて擧んとするありモエホバ、モーセに言たまひけ
るハ汝民の前に進み民れ中の或長老等を作ひりは汝ダ河を擧し
杖を手あ執て往よカ祝よ我ろこにて汝の前にあたりてホレブ社
磐の上に立ん汝磐を擧べし然せば其より水出ん此色を飲べし
モーセするはちイスラエルは長老等の前にて斯てておへりセり
く彼の處の名をマサと呼び又メリヤと呼う是ハイスラエ
ルの子孫の爭ひしあ由り又ろのエホバの見是らの中には在すや否
と言てエホバを試みしあ由りハ時にアーレクきたりてイフラ
ニガミレビテム小職ホルモーセ、ヨシニアに言けるハ我等のため

ふ人を擇き出てアーレクと戰へ明日我神の杖を手あどりて闘の
端に立んナヨシニアするハちモーセの已に言しがとくれ爲しア
ーレクと戰ふモーセ、アロンおよびホルハ闘の巔ふ登り去るモ
モーセの手を舉を邑バイスラエル勝ち手を垂きバアーレク勝り自然
るにモーセは手重くありた是バアロンとホル石をとりてモーセ
の下にあきてろの上に生せ志め一人ハ此方一人ハ彼方がありて
モーセの手を支へたり志か志ろの手日の没まで垂下さりき是
かおいてヨシニア刃をもてアーレクと戦の民を敗り古エホバ
モーセに言たまひけるそ之を書に筆して記念となしヨシニアの
耳ふ乞をい乞よ我必ずアーレクの名を塗抹て天下に乞を誅
ゆること无ら志めんと云斯てモーセ一座の壇を築きるの名をエ
ホバニ(エホバ吾族)と稱ふモーセ云けらくエホバは寶位ふむ
るひて手を舉ることありエホバ世々アーレクと戰ひたまはん

第十八章

一茲ふモーセの外舅あるミデアンの祭司エテロ神ダ凡てモーセのため又ろの民イスラエルをエジプトより導き出したまひし事を聞き是ふ於てモーセの外舅エテロクの通り還されてあり夫モーセの妻チラボラどろの二人の子を擧へ来る三ろの子の一人的名はケルレヨムと云ふ是はモーセ我他國に客となりると言たればありロ今一人の名はエリエゼルと曰ふ是はあれ吾父の神われを助け我を救ひてバロの剣を免られ志めたまふと言たればありエスモーセの外舅エテロモーセの子等妻をつれて曠野に來りモーセが神の山お陣を張る處にいたるハ彼すなへちモーセに言けるハ汝の外舅なる我エテロ汝の妻および之と供なるるの二人の子をたづさへて汝ふ指るどセモーセ出てるの外舅を迎へ亂をなして之ふ接吻し互ふの安否を問て其ふ天幕ふに入るハ而本てモーセエ

本バガイスラエルのためふハロとエジプト人とふ爲たまひし諸の事と遂にて遣し諸の難難およびエホバの己等を拯ひたまひし事をろの外舅に語りけれどもエテロ、エホバガイスラエルをエロアト人の手より救ひいだして之ふ諸の恩典をたまひし事を喜べりナエテロすなへち言けるはエホバは頑べき哉汝等をエジプト人の手とハロの手より救ひいだし民をエジプト人の手の下より拯ひいだせり今我知るエホバは諸の神よりも大なりかくアーヴを遣しう志て事をあせしがエホバこれらに勝りどまにしてモーセの外舅エテロ燔祭と犧牲をエホバお持きたれりアロンおよびカスラエルの長老等皆きたりてモーセの外舅どもに神の前ふ食をあす当次の日おいたりてモーセ坐志て民を審判き志る民は朝より夕までモーセの傍に立り言モーセの外舅モーセの凡て民が爲どころを見て言けるも汝の民ふるす此事は何あるや何故ふ

汝は一人坐しをりて民朝より夕まで汝の傍ふたつや盡モ一セラ
の外舅ふ言けるは民神ふ問んとて我ふ来るなり去彼等事ある時
は我ふ來れば我此と彼とを審判きて神の法度と律法を知るむ者
モ一セの外舅あれに言けるは汝のるすとてろ善らす汝汝かあら
ず氣力おどろへん汝も汝どももる民も然らん此事汝おは重ふ
過ぐ汝一人みては之を爲てとあたひざるべし。今吾言を聽け我
あんちお策を授けん願くハ神なんぢともお在せ汝民のため
神の前お居り訴訟を神お陳よ。汝かれら法度と律法を教へ彼
等の歩むべき道を爲べき事とを彼等お示せ。又汝全體の民の中
より賢友て神を畏れ眞實を重んセ利を惡むとてろの人を選み之
を民の上お立て千人の司とし百人の司となし五十人の司と
し十人の司とし百人の司となし五十人の司となし十人の司とな
し。是は凡てあれを汝ふ陳あめ小事ハ凡て彼等のみづからこれを判

ら志むべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝どろの任を洪あ
せしめよ。三汝もし此事を爲し神また斯汝に命じなを汝はあれお
勝え。此民もまた安然ふろの所お到るふとを得べし。ヨモ一セラの
外舅の言ふ志たゞひてろの凡て言しごとく成り。ヨモ一セすなれち
イ・スラエルの中より遍く賢き人を擇みてあれを民の長とし千
人の司となし百人の司となし五十人の司とし十人の司となせ
り。云彼等常ふ民を鞠き難事はこれをモ一セラ。ふ陳べ小事は凡て自
らこれを判けり。モ一セラの外舅を還したればろの國に往
ぬ。山の前お懸を設けたりニ爰ふセレ登りて神ふ詣る。ヨエホバ

山より彼を呼て言たまへく汝らくヤコブの家ふ言ひイスラエルの子孫ふ告べし。汝らはエラブト人ふ我おなしたるにてろの事を見我お驚の聲をのべて汝らを負て我おいたら志めしを見たり。然を汝等もし善く我ダ言を聞きわる契約を守らを汝等は諸の民に愈りてわざ實となるべし。全地はわダ所有さればありカ汝等は我お對して祭司の國とあり聖き民であるべし。是等の言語を汝イスラエルの子孫ふ告べし。是あれいてモーセ來りて民の長老等を呼びエホバのに命じたまひし言を盡くろの前に陳た色ハ民皆等く應へて言けるはエホバの言たまひし所は皆見きら之を爲べし。モーセすなれち民の言をエホバに告ぐ。エホバモーセに言たまひけるは視よ我密雲の中にをりて汝に臨む是民を出て我お汝と語るを開來めて汝を永く信せ忠めん。ためありとモーセ民の言をエホバに告だりナエホバモーセに言たまひけるは

汝民の所に往て今日明日五邑を聖め之にろの衣服を辭せ。準備をなして三日を待て其は第三日にエホバ全体の民の目前にてシナイ山に降ればあり。汝民のために四周に境界を設けて言べし汝等慎んで山に登るるゝの境界に捲るべからず山に捲る者ハムならず殺さるべし。手を之に觸へカラず其者ハカラズ石にて擊ふろさき或ハ射てころさるべし。觀ど人とを言ず生るあとを得ヒ嘲咲を長く吹鳴さん人々山に上るべし。と吉モーセす。あいち山を下り民にいたりて民を聖め民うの衣服を濯ふ。モーセ民引いでヨルムに會。太む民山の麓に立にシナイ山都て煙を出せりエホバ火の中にありてろの上に下りたまへぞなり。の煙籠の煙

のとく立のぼり山すべて震ふ。喇叭の聲彌高くなりゆきて、げしくありける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふ。エホバシナイ山に下りろの山の頂上にいまし面してエホバ山は頂上にモーセを召たまひけるをモーセ上きりニエホバモーセに言ひたまひけるへ下りて民を警めよ恐らくハ民推破りてエホバに來りて見んとし多の者死るにいたらん。三又エホバに近くとゐるの祭司等にろの身を潔め志めよ恐くハエホバあきらを擊ん。三モーセ、エホバに言けるハ民ハシナイ山に得のほらヒ其ハ汝わきらを警めて山の四周に境界をたて山を聖めよ言たまひたきとなり旨エホバあきれ言たまひけるは往け下れ而して汝とアロンともに上り来るべし但祭司等と民には壊破りて我にのぼりきたら否めされ恐らくハ我れらを擊ん。三モーセ民にくだりゆきてこれに告げたり

第二十章 一神のみの一切の言を宣て言たまへくニ我は汝の神エホバ汝をエジアトの地の奴隸たる家より塘き出せし者なりニ。汝我面の前お我の外何物をも神とすべからず。汝自己のためお何の偶像をも形むべからず又上れ天にある者下れ地ある者あらびに地の下れ水の中にある者の何れ形狀をも作るべからず。之を戒むべからず。己ふ事ふべからず。我エホバ汝の神ハ嫉む。利あれば我を惡む者ふむかひてり父の罪を子にむくいて三四代におよばしけ我を愛しわざ誠命を守る者ふれ恩恵をほせみして千代にいたるなり。汝の神エホバの名を妄に口ふあぐべうらすエホバはおの色の名を妄ふ口にあぐる罪を罰せでひおかざるべしハ安息日を惜えてみれを聖潔すべし。六日は間勞きて汝の一切の業務を爲べし。十七日は汝の神エホバの安息日也。何の業務をも爲べらす。汝も汝の子息、息女も汝の侯姫も汝の家畜も汝の門の中に

をる他國は人も然り其のエホバ六日の中は天と地と海と雲等の中の一切の物を作りて第七日休息みたれば是をもてエホバ安息日を祝ひて聖日と亦たまふ。汝は父母を敬へ是は汝の神エホバの汝あたまふ所の地に汝の生命の長らんためあり。主汝殺すなれ。吉汝姦淫するるを。主汝盜むなれ。主汝の隣人に對して虚妄の證據をたつるなれ。邑者汝の隣人の家を貪るをか。又汝の隣人の妻あよびろの侯姉牛驥馬ならびあ凡て汝の隣人の所有を貪るるを。主民みな雷と電と晴明の音と山の煙るを見たり。民これを見て懼きをばきて遠く立ちえ。モーセあいひけるは汝わきらふ語き我われらか。唯神の我らお語りたまふことあらきら志めよ恐くハ我等死ん。モーセ民ふ言けるは異なる事あか。邑神汝らを試みんため又ろは恐怖を汝らの面は前おおきて汝らお罪を犯さ。から志めんためお歸みたまへるなり。是をおおいて民も遠

くお立ちしダモーセハ神の在すところの濃雲お進みいたる。主汝モーセお言たまひけるは汝イスラエルの子孫お斯いふべし汝等は天よりわる汝等に語ふを見たり。主汝等何をも我あるべて造るべあら。銀の神をも金の神をも汝らのために造るべあら。主汝土は壇を我お築きてるの上。汝の燔祭を廟恩祭汝は羊と牛をろあふべし。我は凡てわる名を憶え忘むる處おて汝お臨みて汝を祝まん。且汝もし石の壇を我おつくるらを琢石をもて。有色を築くべからず。其そ汝もし盤をみ是ふ當るべ之を汚すべけ色があり。汝階より厄壇お升るべららず。是汝の聴る處。汝の上に露るにて。おうらんためあり。是は汝のみの前お立べき律例ありニ汝ヘブルの僕を買ふ時。乙六年の間之に隣業を爲しめ。第七年おは願を索すして。あら色を釋つべし。彼もし獨身にて來らを獨身おて去べし。若妻あら

在るの妻をきどもに去へしゝもしろは主人て色に妻をあたへて男子又ハ女子あ色み生れたら妻の子等は主人に属すべし彼は獨身ふて去へしゝ僕もし我わタ主人と見タ妻子を愛す我釋たるゝを好まず明白お言バカラの主人て色を士師の所に携やき又戸あるひは石柱の所あつ色もくべし而して主人雖をもてう色の耳を刺とはすべし彼は何時までもこれお事ふべきあり七八若ろの娘を賣て婢となす時の僕のごとくお去へらすハ彼もしきの約せし主人の心に適ざる時はろの主人あ色を頬はしむることを得べし然ど之ふ眞實あらすして亦て色を異邦人お賣ふとをあすを得べからずれ又もし之を己の子に與へんと約するがゆ色を女子のごとくお待ふべしサ父もろは子のためお別に娶るあどあるども彼に食物と衣服を與ふる事とろの交接の道とハみれを間断本むべららず其人られに此三を行はずば彼は金をつ

くはりすして出さることを得べし主人を擊て死しめたる者は必ず殺さるべし吉若人みづら畫策ことあきに神人をろの手おろよらしめたまふことある時は我汝のために一箇比處を設く色なる人の其處に逃るべし吉人もし故にろの隣人を謀りて殺す時は汝み色をわる壇よりも競へやきて殺すべし吉の父あるひは母を擊るものハ必ず殺さるべし吉人を掲帶したる者は之を賣たるも詮るの手はあるも必ず殺さるべし吉の父あるひは母を黙る者は殺さるべし吉人相争ふ時お一人石せたれ撃をもてろれ對手を擊ちしみ死にいたらずして床おつくあどあらんにま若起あたりて杖によりて歩むおいたら色之を擊たる者ハ殺さるべし但しろは業を休める賠償をあして之を全く愈しむべきあり二人もし杖をもてろの僕あるひは婢を擊んふろの手は下ふ死を必ず罰せらるべし三然ど彼もし一日二日生じてひるべ其人の罰せらるべ

し彼ひろの人の金子をばあり三人もし相争ひて妬める婦を輩
ちうの子を贋せんか別に害ふき時ひ必ずろの婦人の夫れ要む
る所にしたゞひて刑らき法官は定むる所を爲べし三若徒わる晴
は生ぬにて生命を償ひ旨めにて目を償ひ齒にて齒を償ひ手にて
手を償ひ足にて足を償ひ坐始にて焰を償ひ傷にて傷を償ひ打傷
にて打傷を償ふべし云人もしろの僕は一れ目あるひれ姉は一れ
目と擧てみれと喪さばろは目れために之と釋つべし云又もしろ
の僕の一箇の齒を娘は一箇の歯を打落ばろの歯のために之を釋
つべし云牛もし男あるひれ女を衙て死志めあばろは牛をば必ず
石にて擊殺すべしろは肉へ食ふべあらず但しろの牛の主ひ罪る
し云然ど牛もし索より衙くみとをす者にしてろは主あれおた
めに忠告をうけし事あるに之を守りおらずして遂に男あるひれ
女を殺すに至らためるばろは牛の石にて擊れろの主もまた殺さ

るべし云若彼墮罪金を命ぜられれば凡てうの命ぜられし者を生
命の償に出すべし云男辱を衙も女子を衙もみの例に依たゞひて
あすべし云牛もし僕あるひれ姉を衙ばろの主人は銀三十ヶル
を與ふべし又ろの牛の石にて擊みろすべし云人もし坑を啓くろ
又人もし穴を堀ることをあしきを覆ひ支志て牛あるひれ驢馬
みれに陥バ畜穴の主み色を償ひ金をろれ所有主に與ふべし但し
ろの死たる畜ひ己の有どあるべし云此人の牛もし彼人のを衙殺
るにろの主みれを守りあらざり本あらばろの人かあらず牛をも
て牛を償ふべし但しろの死たる者ひ己の有どあるべし
云人もし牛あるひは羊を竊みてあきを難し又は賣る時
は五の牛をもて一の牛を賄ひ四の羊をもて一の羊を賄ふべしニ

もし盜賊の壊り入るを見てあれを擊て死むる時はこれのために血であるすに及ばず。然ど若日いでよりあらを之るためをうりてろの竊める物を償ふべし。若ろの竊める物實に生てろの手ふあらばろの牛駄馬羊たるふかまはらず借してこ邑を償ふえし。人もし田圃あるひは葡萄園の物を食はせろの家畜をいみちて人の田圃の物を食ふにいたら主むる時は自己の田圃の嘉物と自己の葡萄園の嘉物をもてろの債をもすべし。火もし逃て剥にうつりろの積あげたる穀物あるひは赤だ刈さる穀物あるひは田野を燃べろの火を焚たる者かならずこそを償ふべし。人もし金あるひは物を人に預るふろの人の家より病みとらえたる時はろの盜者あらはきるぞこそを信志て債はしむべし。盜者もしあらひミサバ家の主人を法官ふつれもきて彼ダろの人の物に手

をうけたるや否を見るべし。何の過愆を論歩牛にもあを駄馬にもあき羊ふもあき衣服ふもあき又は何の失物にもあき凡て人の見て是其ありと言ふ者ある時は法官ろの兩造の言を聽べし。而して法官の罪ありとする者あきを倍してろの對手ふ償ふべし。人もし駄馬か牛か羊か又はろの他の家畜をろの隣人にあづけんふ死ぬ傷けらるゝか又は捨ひさらるゝみどありて誰もこれを見してるき時はさ二人の間にろの隣人の物に手をかけずとニ水バを指して誓ふふとあるべし。然る時はろの持主これを承諾べし。彼人は債をふすみ及ばず。然ど若自己の請より窮まれたる時はろの所有主ふこれを償ふべし。若またろの娶てろされし時は其を証據のためふ持きたるべしろの娶てろされし者は償ふふおよまず。人もしろの隣人より借たる者あらんふろの物傷けられ又は死るみどありてろの所有主ふれどもはをらざる時は必ずあれを償

ふべし主の所有主ろれど其ふをらばあれを償ふおあよばず雇
し者なる時もあらり其は雇れて來り志あれればありま人もし聘定
あらざる處女を誘ひてあきと寝たらば必ずあれに聘禮志て妻とな
なすべし主の父もしろ色をうの人お與ふるほどを固く拒まば
處女ふする聘禮ふてら志て金をそらふべし魔術をつかふ女を
生しあくべうらす凡て畜を犯す者をば必ず殺すべしニ水バ
をあきて別の神ふ犠牲を獻る者をそ殺すべしニ汝他國の人を懲
すべからず又れを虐ぐべからず汝らもエジプトの國にをる時は
は他國の人たりゑありニ汝凡て寡婦あるひは孤子を懲すべらす
ニ汝もし彼等を懲まして彼等厄れに呼らば我らるらすの號呼
を聽べし旨わる怒烈しくあり我劍をもて汝らを殺さん汝らの妻
ハ寡婦となり汝らの子女は孤子とならんニ汝もし汝どもにあ
るわダメの貧き者お金を貸す時ハ金貸のごとくあずべくらす又
れより利足をどるべうらすニ汝もし人の衣服を賀にそらば日
のいる時までにこれを歸すべしモ其の身を蔽ふ者は是のミ
にして是ハロの背の衣ふればあり彼何の中ふ寝んや彼われに顧
へらば猶きらん我ハ慈悲ある者あれをなりニ汝神を罵るべうら
す民の長を詛ふべうらすニ汝の豊潤なる物と汝は擇りたる物
とを献ぐることを怠たるありき汝は長子を我お與ふべしニ汝ま
た汝は牛と羊をも斯ムすべし即ち七日母どもにをら志めて八
日にこれを我お與ふべしニ汝等は我的聖民であるべし汝らは野
ふて獸に裂れし者の肉を食ふべうらす汝らふれを天に投與ふべ
し

一汝虚妄の風説を言ふらずべからず悪き人と手をあひ
せて人を誣る証人であるべうらすニ汝衆の人に志たダヒて悪を
あすべからず訴訟ふおいて答をあすふ方りて衆の人お志たダヒ

て道を曲べりらずニ汝また貧き人の訴訟を曲て死くべりらず
 汝もし汝の敵の牛あるひそ驢馬の迷ひ去お遣ばりあらず古きを
 牽てろの人ふ歸すべしヨ汝もし汝を惡む者の驢馬のろの負の下
 お作を臥すを見バ慎みてこそを遺さるべクらず必ずこそを助け
 てろの負を釋べしハ汝貧き者の訴訟ある時ふろの判決を曲べり
 らずセ虚假の事ふ遠き無辜者と義者とのてそを殺するを我
 わ惡き者を義とするふとあらざるありハ汝賄賂を受ベクらず賄
 賂れ入の目を暗めし義者の言を曲しむるあり他國の人を虐ぐ
 べららず汝等ハエジプトの國ふる時ハ他國の人ふてありた色
 バ他國の入の心を知ありナ汝六年の間汝の地ふ種播きろの實を
 穢いるべしサ但し第七年ふれふそを息ませて耕さずふおくへし
 面して汝の民の貧き者ふ食ふふとを得せしめよ其餘をる者の野
 の穀ふそを食ハん汝の葡萄園も橄欖園も斯のおどくるすべしサ

汝六日の間汝の業をあしセ日ふ息むべし斯汝の牛およ次驢馬を
 息ませ汝の娘の子および他國の人をして息をつかしめよミわダ汝
 ふ言し事ふ凡て心を用ひよ他の神々の名を稱ふベクらずまた之
 を汝の口より聞えしめきヨ古汝年お三度わがためお節筵を守る
 べし且汝無醜パンの節禮をもるべし即ちわダ汝ふ命せしお思
 くアヒバの月の定の時ふおいて七日の間酵いきぬパンを食ふべ
 し其いの月お汝エジプトより出たそばふり徒手おてわダ前お
 田る者あるべからずまた舊時の節筵を守るべし是するはち汝
 大勞苦て田野に播る者の初の實を祝ふあり又收穫の節筵を守る
 べし是するハち汝の勞苦によりて成る者を年の終み田野より取
 藏る者あり老汝の男たる者ハ皆年お三次主エホバの前お山へし
 ま汝わダ犠牲の血を酌いそしパンどもふ献血べクらず又わダ
 節筵の脂を聖廟まで残しあくべららず汝の地に初お結べる實

の初を汝の神エホバの室を持きたるべし汝山羊羔をろの母の乳
ふて煮べららずニ禱よ我天の使をつるはして汝が先たせ遂みて
汝を守らせ汝をわざ備へし處ふ導あしめんニ汝等の前ふ誰ミ
をりろの言ふしたダヘ之を怒らするるか是彼なんぢらの咎を數
さるべしわダメ名きの中ふあればありニ汝もし彼ダ言ふ志た
ダひ凡てわダ言ふろを爲バ我あんぢの敵となり汝の仇の
仇となるべしニわダメ汝みさきだちゆきて汝をアモリ人、ヘブ人、
ベリヤ人、カナン人、ヒビ人、およギエイス人ふ導きいたらん我れ
らを絶べし旨汝かれらの神を拜むベウラヂみれに奉事ベウラヂ
彼らの作にならふなク是汝其等を悉く毀ちろの偶像を打ち摧くべ
しニ汝等の神エホバに事へよ然バエホバ汝らのパンと水を祝し
汝らの中より疾病を除きたまひんニ汝の國の中にハ流產する者
なく妊娠する者あらるべし我汝の日の歎を盈さんモ我わダ畏懼を

あんぢの前に遣し汝ダ至る也あろの念をあせぐく取り汝の語
の敵を志て汝ふ後を見せあめん云我黃蜂を汝の先ふつらわさん
是ヒゼ八、カナン人あよ次ヘテ人を汝の前より逐そらふべし元我
か邑らを一年の中あい汝の前より逐はらヒ恐くニ土地荒邑野
の獸増て汝を害せん乎我漸々あるきらを汝の前より逐そらはん
汝らハ遂ふ増てろの地を獲ふいたらんニ我あんぢの境をさだめ
て紅海よりベリヤ人の海ふいたらせ曠野より河ふいたらしめ
ん我この地ふ住る者を汝の手に付さん汝きらを汝の前より逐
はらふべしニ汝あきらおよび彼らの神と何の契約をもなすべる
らす且彼らハ汝の國ふ住べきふあらす恐くハ彼ら汝をして我ふ
罪を犯さあめん汝もし彼等の神ふ事あばうの事うならず汝の權
權どあるべきあり

よびイスラエルの七十人の長老とまもにエホバの許に上りきた
き面して汝等遙にたちて拜むべしニモ一セ一人ニホバに近づく
べし彼等の近るべあらず又民もあ是をもに上るべあらずニセ
トセ來りてエホバの諸の言およびろの諸の典例を民に告志此民
ミる同音に應て云ふエホバの宣ひし言ひ皆わ是らを是を爲べし
モ一セエホバの言をふとト書記し朝夙に興いで山の麓
に壇を築きイスラエルの十二の支派に立たぎひて十二の柱を建
てモ而してイスラエルの子孫の中の少き人等を遣はしてエホバ
に燔祭を獻げ志め牛をもて齋恩祭を供へ志むモ一セ時にろの
血の牛をとりて餘に盛是又ろの血の牛を壇の上に濯げりセ而し
て契約の書をとりて民に語きさせたるに彼ら應へて言ふエホバ
の宣ふ所へ皆わ色らみを爲て道ふべしモ一セするハちろ
の血をとりて民に灑て言ふ是すあるハチエホバダ此諸の言につ

きて汝を結たまへる契約の血あり九斯てモ一セ、アロン、ナダブ、ア
ビウおよびイスラエルの七十人の長老のぼり仰きてナイスラエ
ルの神を見るにろの足の下ふへ透明の青玉をもて作色るをとき
物ありて耀なる天空ふさも似たりサ神ハイスラエルの此頃入等
ふるの手をあけたまひき彼等の神を見又食欲をあせり三姫
おエホバモ一セお言たまひけるハ山に上りて我に來り其處にを
是我わダ彼等を教へんために書しるせる法律と誡命を載るをあ
我等の汝等に歸るまで汝等此に待ちを邑視マアロンとホル汝
等ともに在り凡て事ある者ハ彼等にいたるべし爰而してモ
セ山にのぼり去る雲山を蔽ひをる爰すみれちエホバの榮光シナ
イ山の上に駐りて雲山を蔽ふみど六日あり志七日にいたりて

エホバ雲の中よりモーセを呼たまふ者エホバの榮光山の巔に燃る火のごとくにイスラエルの子孫の目に見えたりモーセ雲の中に入り山に登りセレ四十日四十夜山に居る

エホバモーセに告て言たまひけるニイスラエルの子孫に告て我に獻物を持きたれど言へ凡ての心ふ好んで出する者よりハ汝等ろの我ふ獻ぐるところの物を取べしニ汝等おかれらより取べきろの獻物ハ是あり即ち金銀銅青紫紅の線麻山羊毛赤染の牡羊の皮驛の皮合歡木油漆膏と馨しき香を調ふててろの香料七穗附ねよびエボテと胸牌ふ嵌る玉ハ彼等わダためみ聖所を作るべし我われらの中ふ住んキタマサ凡てわダ汝らふすとみるふ循ひ幕屋の式様およびろの器具の式様ふ志たタヒてあれを作るべしナ彼等合歡木をもて櫃を作らべしろの長ハ二キユビト半ろの潤ハ一キユビト半るるベキユビト半ろの潤ハ一キユビト半るるベシ

しさ汝純金をもて之を蔽ふべし即ち内外せもふこれを蔽ひろの上の周圍小金の縁を造るベシ三汝金の環四箇を鑄てろの四の足あつくべし即ち此旁カタマリ二箇の輪彼旁カタマリ二箇の轆をつくべし三汝また合歡木をもて杠を作りてこそみ金を着すべし古面東てろの杠を櫃の邊旁の環ふさしいれてこゑをもて櫃を昇べし三杠の櫛の環ふ差いをおくべし其より脱はなすベクらず汝わが汝ふ興ふる律法をろの櫃ふ藏むべし毛汝純金をもて贋罪所を造るべしろの長ハ二キユビト半ろの潤ハ一キユビト半るるベシ大汝金をもて二箇のケルビムを作るべし即ち撫て打てこれを作り贋罪所の兩傍に置べし矣一のケルビムを此旁に一のケルビムを彼旁に造り即ちケルビムを贋罪所の兩旁に造るべしニケルビムハ翼を高く展べろの翼をもて贋罪所を挑ひろの面を互に相向くべしするハちケルビムの面ハ贋罪所に向ふべしニ汝贋罪所を櫃の土

に置矣また我汝に與ふる律法を櫃の中ふ藏むべし。其處にて
我あんちふ會ひ願罪所の上より、律法の櫃の上なる二箇のケルビ
ムの間より志て我イスラエルの子孫のためと見ゆ汝お命せんと
する諸の事を汝ふ語ん。汝また合歡木をもて榮を作るべしろの
長ハニキユセトろの濶ハ一キユセトろの高ハ一キユセト半なる
べし。而して汝純金をこそに着せろの周圍に金の縁をつくるべ
し。汝の四間に掌寛の邊をつくりろの邊の周圍に金の小縁を
作るべし。またそれために金の環四箇を作りろの足の四隅あ
るの環をつくべし。モ環は邊の側に附べし。是は榮を昇とてろの杠
をいるよ處あり。又また合歡木をもてろの杠をつくりてこれに金
を着すべし。案はみ色に因て昇るべきあり。云汝また其に用ふる盤、
匙杓および酒を灌ぐとろの聲を作るべし。即ち純金をもてみ色
を造るべし。汝榮の上ふ供前のパンを置いて常にわだ前にあら志

むべし。汝純金をもて一箇の燈臺を造るべし。燈臺は檻をもてう
ちて之を作るべしろの臺、座、軸、萼、節、花。其に聯ら志むべし。又六
の枝をろの旁より出志むべし。即ち燈臺の三の枝は此旁より出で
燈臺の三の枝は彼旁より出しむべし。又巴旦杏の花の形せる
節および花ともに此枝にあり。又巴旦杏の花の形せる三の萼、節
および花ともに彼枝にあるべし。燈臺より出る六の枝を皆斯の
ごとくにすべし。又巴旦杏の花の形せる四の萼の節および花と
ともに燈臺ふあるべし。又兩箇の枝の下に一箇の節あら志め。又ろ
の兩箇の枝の下に一箇の節あら志め。又ろの兩箇の枝の下に一箇
の節あら志むべし。燈臺より出る六の枝。是のごとくなるべし。
まろの節と枝とい共ふ連あら志め。皆撻にて打て。純金をもて造る
べし。毛又れがため。又七箇の燈蓋を造りろの燈蓋を土に置てろ
の對向を照さしむべし。又ろの燈鉗と剪燈盤をも純金あらしむべ

し是れ燈臺と此の籠の器具を造るには純金一タラントを用ふべし
乎汝山ふて彌されし式様に依たゞひて之を作ることふ心を用ひ
よ

汝山汝山汝また幕屋のためふ十の幕を造るべしうの幕は即ち
麻の撚絲青紫および紅の絲をもて之を造り精巧おケルべみをろ
の上に織出モベシニ一の幕の長は二十八キユビト一の幕の闊は
四キユビトあるべし幕は皆ろのす尺を同うモベシニろの幕五箇
を互に連ねあはせ又ろの他の幕五箇をも互に連ねあはすべし
而してろの一聯の幕の邊においてろの聯絡處の端に青色の禪を
付べし又他の一聯の幕の聯絡處の邊ふも斯なモベシニ汝一聯の
幕に禪五十をつけ又他の一聯の幕の聯絡處の邊ふも禪五十をつ
け斯ろの禪を去て彼ど此と相對せ志むべしカ而して金の環五十
を造りろの環をもて幕を連ねあはせて一の幕屋とモベシ汝

また山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の蓋となモベシ即ち
幕十一をつくるべしハろの一箇の幕の長は三十キユビトろの一
箇の幕の闊は四キユビトあるべし即ちろの十一の幕は尺寸を一
ふそべしカ而してろの幕五を一ふ聯ねまたろの幕六を一ふ聯ね
ろの第六の幕を幕屋の前ふ摺むべしナ又ろの一聯の幕の邊をあ
ハちろの聯絡處の端ふ禪五十を付け又他の一聯の幕の聯絡處ふ
も禪五十を付べしカ而して銅の環五十を作りろの環を禪にうけ
てうの幕を聯ねあはせて一どふそべしうの天幕の幕の餘れる
邊餘すなひちろの餘れる半幕をバ幕屋の後ふ垂志ひべし吉天幕
の幕の餘れる者は此旁お一キユビト彼旁お一キユビトあり之を
幕屋の兩傍此方彼方お垂てあれを蓋ふべし吉汝赤く染たる牡山
羊の皮をもて幕屋の蓋をつくりろの上ふ穢の皮の蓋をほどみす
べしま汝合歡木をもて幕屋のために堅板を造るべし一一枚の板

の長ハ十キユヒト一枚の板の潤ハ一キユセト半あるべし。老板と
二の排をつくりて彼と此と交指ためよ幕屋の板。おハ皆期の
さとく爲べし。汝幕屋のため。お板を造るべし。即ち南向の方のた
め。お板二十枚を作るべし。而して。ろの二十枚の板の下。お銀の座
四十を造るべし。即ち此板の下。おもろの二の排のため。お二の座あ
ら。老め。彼板の下。おもろの二の排のため。お二の座。あら。老む。べし。
幕屋の他の方する。ひちろの北の方のため。おも板二十枚を作るべ
し。而して。あれ。お銀の座四十を作り。此板の下。おも二の座。彼板の
下。おも二の座。あら。老む。べし。三幕屋の後。する。ひちろの西の方のた
め。に板六枚を作るべし。又幕屋の後。は。兩。は。隅。は。ため。お板二枚を
作るべし。言ろの二枚。ハ。下。ふ。て。相。合。せ。老。め。ろ。の。頂。ま。で。一。に。連。る。ら
お。む。べ。し。一。箇。の。銀。お。於。て。然。り。ろ。の。二。枚。ど。も。お。是。の。如。く。る。べ.
其等ハ。二。の。隅。の。た。め。お。設。く。る。者。あ。り。言。ろ。の。板。ハ。合。て。八。枚。ろ。の。銀

の座ハ十六座。此板。おも二の座。彼板。にも。二。は。座。あら。し。む。べし。
合歛木をもて横木を作り。幕屋の此方の板のため。お五本を設くべ
し。また幕屋の彼方の板のため。お横木五本を設け。幕屋の後。する
ひちろの西の方の板のため。お横木五本を設くべし。板の真中に
ある中間の横木を。ば。端。より。端。まで。通。ら。老。む。べし。而して。ろの板
お金を着せ。金をもて。之。の。ため。お銀を作り。て。横木を。あれ。お貫。き。又
ろの横木。お金を着そべし。三汝山。おて。重。され。し。そ。ろ。の。ろ。の。模。範
あ。老。た。ダ。び。て。幕。屋。を。建。べ。し。三汝。また。青。紫。紅。の。縁。お。よ。び。麻。の。撚。糸
を。も。て。幕。を。作。り。巧。ふ。ケ。ル。ビ。ム。を。ろ。の。上。お。織。い。だ。そ。べ。し。三。而。して
金を着たる四本の合歛木の柱の上。お之。を。掛。べ。し。ろ。の。鉢。は。金。お
ろの柱。は。四。の。銀。の。座。の。上。お。置。べ。し。三汝。の。幕。を。銀。の。下。お。掛け。其
處。ふろの。幕。の。中。に。律法の。櫃。を。藏。む。べ。し。ろ。の。幕。モ。な。れ。ち。汝。ら。た
め。お聖所。お至聖所。を。分。た。ん。吾。汝。お至。聖所。に。ある。律法の。櫃。の。上。お

罪所を置べし。而してろの幕の外ふ案を置ふ。幕屋の南の方ふ壇を置いて案ふ。對は志むべし。案は北の方ふ置べし。又青、紫、紅の線および麻の撚糸をもて帳を織るし。幕屋の入口ふ掛べしも。又ろの帳のため。合歡木をもて柱五本を造りて。あれお金を着せろの鈎を金ふ。モベシ。又ろの柱のため。合歡木をもて五箇の座を鑄べし。

汝合歡木をもて長五キニビト。潤五キニビトの壇を作。るべし。ろの壇は四角ろの高は三キニビトあるべし。ニろの四隅の上。其の角を作りて。ろの角を其より出玄める。壇。おは銅を着そへし。又灰を受る壺と火鍾と鉢と肉叉と火鼎を作るべし。壇の器は皆銅をもて之を作るべし。汝壇のため。合歡木をもて金網を作り。ろの網の上。ふろの四隅ふ銅の環を四箇作るべし。而してろの網を壇の中程の邊の下ふ。置て之を壇の半小達せ。志むべし。又壇のため。合歡木をもて柱を造り。銅をふれふ。着そ。

レレセロの柱を環ふ。貫きろの柱を壇の兩傍ふ。あら志めて之を昇べし。壇は汝板をもて之を空ふ。造り汝。山ふて。重されしとくふ。あれを造るべし。汝。また幕屋の庭をつくるべし。南ふ向ひては庭のため。方お長百キニビトの綱布の幕を設けて。ろの一方お當べし。ろの二十の柱。およびろの二十の座は銅ふし。其柱の鈎あ志柱の鈎。とろの柱は銀ふ。モベシ。又北の方ふあたりて。長百キニビトの幕をろの縦ふ。設くべし。ろの二十の柱。とろの柱の二十の座は銅ふ。柱の鈎。とろの柱は銀ふ。モベシ。志。庭の横。モア。ちろの西の方ふは五十キニビトの幕を設くべし。ろの柱は十ろの座も。十三また東ふ向ひては。庭の東の方の測は五十キニビトにすべし。古而して此一旁に十五キニビトの幕を設くべし。ろの柱は三ろの座も。十三又彼一旁ふも十五キニビトの幕を設くべし。ろの柱は三ろの座も。十三古。庭のため。青、紫、紅の線および麻の撚糸をもて。織るし。

たる二十キユセトの帳を設くべしろの柱は四ろの座も四ま也の四周の柱は皆銀の柄をもて續けるの鎖を銀にしろの座を銅ふそべし六庭の繩は百キユセトの横は五十キユセト宛ろの高は五キユセト麻の撚糸をもてつくりるしろの座を銅ふそべしま凡て幕屋ふ用ふるところの諸の器具並にろの釘および庭は釘は銅をもて作るべし二汝又イスラエルは子孫に命じ橄榄を搗て取たる清き油を燈火のためお汝ふ持きたら志めて絶ず燈火をともそべし三集會の幕屋ふ於て律法の前ある幕の外おアロンどろの子等晩より朝まで子ホバの前あるの燈火を整ふべし是はイスラエルの子孫の世々たえず守るべき定例なり。

第十八章 一汝イスラエルの子孫の中より汝の兄弟アガシどろの子等するいはちアロンどろの子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを汝ふ至ら志めて彼を志て我ふむりひて祭司の職をあさ志むべき衣服もあり即ち胸牌、エボデ、明表、間格の裏表、頭帽および帶、彼等汝の兄弟アロンどろの子等のためお聖衣をつくりて彼を志してアロンを聖別て我お祭司の職をあさ志むべし。彼等ダ製るべき衣服也是如此あり即ち胸牌、エボデ、明表、間格の裏表、頭帽および帶、彼等汝の兄弟アロンどろの子等のためお聖衣をつくりて彼を志して我お祭司の職をあさむりひてなそことを文せ志むべし。即ち金青、紫、紅の糸および麻の撚糸をもて巧みエボデを織るそべし。セエボデには二の肩帯をほどみしろの兩の端を連ねて之を合モべし。エボデの上ふありてこれを束ねるところの帶はろの物同うしてエボデの製れどくおすべし即ち金青、紫、紅の糸および麻の撚糸をもてあれを作るべし。汝二箇の意垣をとりてろの上ふイスラエルの

子等の名を鏽つくべし。即ち彼等の誕生あ志たるひてろの名六
を一の玉ふ鏽りろの遺餘の名六を外の玉ふ鏽べし。玉ふ雕刻す
る人の印を刻びとくに汝イスラエルの子等の名をろの二の玉
ふ鏽つけろの玉を金の槽ふ候べし。三みの二の玉をエボデの肩帶
の上ふつけてイスラエルの子等の記念の玉となら志むべし。即ち
アロンエホバの前において彼等の名をろの兩の肩ふ負て記念と
あら志むべし。三汝金の槽を作るべし。吉而して純金を組て紐のご
どき二箇の鍵を作りろの組る鍵をろの槽ふつくべし。汝また宿
剣の胸牌を巧手織なしエボデの製のごとくに之をつくるべし。即
ち金青紫紅の縁および麻の撚糸をもてこれを製るべし。是は
四角ふして二重なるべく其長は半キユビトの濶も半キユビト
なるべし。汝またの中に玉を嵌て玉を四行ふすべし。即ち赤玉
黄玉瑪瑙の一行を第一行とすべし。又第二行は紅玉青玉、金剛石大

第三行は深紅玉白瑪瑙紫玉ニヤ第四行は黃緑玉、葱石碧玉。凡て金の
槽の中ふあれを嵌べし。三の玉はイスラエルの子等の名に循ひ
ろの名のごとくおこれを十二ふすべし。而してろの十二の支派の
各々の名は印を刻びとくふあれを鏽つくべし。三汝純金を組ので
とくに組たる鍵を胸牌の上ふりくべし。三また胸牌の上ふ金の環
二箇を作り胸牌の兩の端ふろの二箇の環をつけ。且クの金の紐二
條を胸牌の鍵の二箇の環ふつくべし。三而してろの二條の紐の兩
の端を二箇の槽ふ結ひエボデの肩帶の上ふつけてろの前にあら
志むべし。又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につく
べし。即ちろのエボデふ對ふところの内の邊にて色をつくべし。そ
れまた金の環ふ箇造りてみきをエボデの兩傍の下の方おつけ
ろの前方にてろの聯接する處に對ひてエボデの帶の上にあら志
むべし。胸牌の青緞をもてろの環によりて之をエボデの環ふ結

ひつけエボデの帶の上にあらしむべし然せば胸牌エボブを離る
まこと無るべし三アロン聖所に入る時ハロハ胸ふある審判の胸
牌にイスラエルの子等の名を帶てこれをろの心は上に置きエボ
バの前に恒に記念とあら志むべし三汝審判の胸牌にウリムとトン
ミムをいきアロンをあてろヒエボバは前にに入る時に乙をろの
心は上に置しむべしアロンハエボバは前は常にイスラエルヒ子
孫は審判を帶てろれ心は上に置べし三エボデに属する明衣ハ凡
て乙を青く作るべし三頭をいる三孔ハロの眞中に設くべし又
ろの孔の周圍に纏物の縁を行け鑑の領盤のごとくになして
之を綻びさら左むべし三ろの襷に乙青、紫、紅の糸をもて石榴を
切くりてその裾の周圍に付け又四周に金の鈴をろの間々に付け
べし吾即ち明衣の裾に金の鈴に石榴又金の鈴に石榴とろの周
圍わりくべし三アロン奉事をす時おられを着べし彼が聖處お

いりてエボバの前お至る時また出きたる時おはろの鈴の音聞ゆ
べし斯せを彼死るみとあらヒ云汝純金をもて一枚の前板を作り
印を刻ダゴとくふろの上おエボバに聖と鏽付け毛之を青細に付
けて頭帽の上おあら志むべし即ち頭帽の前方の方おられを付け
し是はアロンの額おあるべしアロンはイスラエルの子孫ダ献
ぐるどみろの聖物すあらちろの献ぐる諸の聖き供物の上おある
とみろの罪を貶べしこの板をそ常おアロンの額おあら志むべし
是エボバの前お其等の受納られんためあり三汝麻糸をもて裏衣
を間格ふ織り麻糸をもて頭帽を製りまた帶を織工ふ織るそへし
早汝またアロンの子等のためお裏衣を製り彼らのためお帶を製
か彼らのために頭巾を製りてろの身に顯榮と榮光あら志むべし
而して汝あれを汝の兄弟アロンおよび彼とまもあるろの子等
お若せ育を彼等に灌ぎみれを立てみれを聖別てみれをして祭司

此職を我にあさ志むべし三又^{アラマ}のれらのためふろの際所を蔽ふ麻の桺を製り腰より腰に達ら志むべし三アロン^{アラマ}の子等は集會の幕屋ふ入る時又は祭壇に近づきて聖所に職事をあす時はみれを着べし斯せを懲をうむりて死るふどあるからん是は彼より彼の後の子孫の永く守るべき例あり

第廿九章一汝のれらを聖別て彼らを去て我にむひて祭司の職をなさ志むるふは斯これお爲べし即ち若き牡牛と二の全き牡羊を取りニ無酵パン油を和たる無酵菓子および油を塗たる無酵煎餅を取べし是等は麥粉をもて製るべしニ而してあれを一箇の籠をおいれ牡牛れよび二の牡山羊とももおみれをろの籠のまゝお持きたるべし四汝またアロン^{アラマ}の子等を集會の幕屋の口お拂きたりて水をもてわれらを洗ひ清めモ衣服をとりて裏衣エボデに属する明衣エボデねよび胸牌をアロンに着せエボデの帶を之

お帶志むべし六而してあれの首ふ頭帽をうむらせろの頭帽の上ふるの聖金板を戴^{アラマ}おめセ灌油を取てあれを彼の首ふ傾け灌ぐべしハ又^{アラマ}のれの子等を攜來りて之ふ裏衣を着せん之ふ帶を帶志め頭巾をふれふるむらすべし即ちアロン^{アラマ}の子等ふ斯なすべし祭司の職はられらお歸す永くみれを倒さなすべし汝斯アロン^{アラマ}の子等を立べしナ汝集會の幕屋の前ふ牡牛をひき來ら志むべし面してアロン^{アラマ}の子等ろの牡牛の頭お手を接べしまかくしテ汝集會の幕屋の口おてエ水^{アラマ}の前ふろの牡牛を宰すべし^{アラマ}汝の牡牛の血をとり汝の指をもてこれを壇の角お塗りろの血をそこでく壇の下お灌をべし^{アラマ}汝またろの臍^{アラマ}膀胱を裏むべしろの諸の脂肝^{アラマ}の上の網膜^{アラマ}れよび二の腎^{アラマ}の上の脂^{アラマ}を取てみれを壇の上お燔^{アラマ}べし吉但しろの牡牛の肉^{アラマ}ろの皮^{アラマ}れよび糞^{アラマ}は營の外おて火お焼べし是は罪禁あり^{アラマ}汝の牡山羊一頭^{アラマ}を取るべし而

してアロンとろの子等の牡山羊の上小手を按べし。汝の牡山羊を宰しろの血をとりてみれを壇の上の周圍に灑べし。老汝うれ牡山羊を切割きろの臍輪とろの足を洗ひて之をろの肉の塊。てまつる火祭なり。汝また今一の牡山羊をだるべし。而してアロンとろの子等の牡山羊の頭の上小手を按べし。汝そなへちろの牡山羊を殺しろの血をとりてみ色をアロンの右の耳に塗れよ。びろの子等の右の耳の端につけ。又ろの右の手の大指と右の足の拇指ふつけの血を壇の周圍ふ灑ぐべし。又壇の上の血をとり。灌油をとりて之をアロンとろの衣服およびろの子等とろの子等の衣服ふ灑ぐべし。斯彼とろの衣服およびろの子等とろの子等の衣服清潔なるべし。汝の牡山羊の脂と脂の尾およびろの臍輪

を剥る。脂肪の上の網膜、二箇の腎とろの上の脂および右の腰を取べし。是れ任職の牡山羊なり。汝またエホバの前ふある無酵パンの籠の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一箇と煎餅一個を取べし。旨汝みれらを悉くアロンの手とろの子等の手お受けみれを搖してエホバふ搖祭となそべし。而して汝みれらを彼等の手より取て壇の上ふて燔祭ふくわへて焼くべし。是エホバの前ふ馨しき香とあるべし。是するいちエホバふたてまつる火祭あり。汝またアロンとロンの任職の牡山羊の胸を取てみ色をエホバの前ふ搖て搖祭と。あすべし。是汝の受るとみろの分なり。是汝の搖とみろの搖祭の物の胸およびろの舉るとみろの舉祭の物の腿すな。アロンとろの子等の任職の牡山羊の胸と腿を聖別つべし。是エアロンとろの子等に歸すべし。イスラエルの子孫永くみの例を守るべきなり。是エイスラエルの子孫お禮恩祭の犠牲の中よりとるとみろの

祭マツルふしてエホバエホバみなすとみるの舉マツル祭マツルアリ云ハシマツルアロンの聖衣マツルハハ後アフタの子孫アフタ小歸マツルすスべし子孫アフタこれを着マツル膏マツルをろよおれ職マツルハ任マツルせらるスべきあり云ハシマツルアロンの子孫アフタの中ハナカ彼ハふるひりて祭司マツルとなり集會マツルの幕マツル屋マツルふいりて聖所マツルに職マツルをるす者ハ先マツル七日マツルの間マツルこれを着マツルべし云ハシマツル汝ハシマツル狂マツル職マツルの牡山羊マツルを取り聖所マツルおてろの肉マツルを煮マツルべし云ハシマツルアロンどろの子等マツルハ集會マツルの幕マツル屋マツルの戸口マツルふおいてろの牡山羊マツルの肉マツルと筐マツル中のパンマツルを食マツルふべし云ハシマツル罪マツルを贖マツルふ物マツルするハち彼ハらを立て彼らハラを聖別マツルる用マツルるとてろの物マツルを彼らハラ食マツルふべし餘マツルの人は食マツルふべらスらす其ハは聖物マツルなれをなり言マツルもし任職マツルの肉マツルあるひハパンマツル旦マツル既マツルで還マツルりをらせるの遺マツル者は火マツルをもてて邑マツルを焼マツルへし是ハ聖けれど食マツルふべらスらす云ハシマツル汝ハシマツルわが凡マツルて汝ハシマツル命マツルする云ハシマツルとくふアロンどろの子等マツルふ斯マツルすべし即マツルちりきらのため云ハシマツル七日マツルのあひだ任職マツルの禮マツルをあてマツルふべし云ハシマツル汝ハシマツル日々に罪マツル祭マツルの牡牛マツル一頭マツルをささげて贖マツルをなす云ハシマツル又マツル直マツルのたまに貴マツル財マツルと

してみれを清めふきふ膏を灌ぎみれを聖別べし。汝七日のあひだ壇のためお願をあして之を聖別め至聖き壇となら玄むべし凡て壇に捐る者ハ聖なるべし。汝が壇の上ふさ多くべき者ハ是なり即ち一歲の羔ニを日々絶ず献ぐべし。一の羔ハ朝にみ色を獻げ一の羔ハ夕にみ色を獻ぐべし。第一の羔か麥粉十分の一を搗たる油一ヒンの四分の一を和たるを添へ又灌祭として酒一ヒンの四分の一を添へし。旦今一年の羔羊ハ夕ふる邑を獻げ朝とおなじき素祭と灌祭をて邑と其ふさしげ馨しき香となら志めエホバふ火祭たら志むへし。是すなれち汝らの代々絶ず集會の幕屋の門口みてエホバの前お献ぐべき燔祭なり我其處あて汝等ふ會ひ汝ど語べし。其處小て我イエラエルの子孫に會ん幕屋のわる榮光によりて聖なるべし。吾集會の幕屋と祭壇を聖めん亦アロンどろの子等を聖めて我に祭司の職をあさ志むべし。皇我イスラエルの

子孫の中に居て彼らの神とならん。即ち彼等は我ら彼らの神エホバなりにして彼等の中には住んで彼等をエラブトの地より導き出せし者なるふとを知ん。我ハエホバなり。

第三十章 汝香を焚く壇を造るべし。即ち合歡木をもてこれを造るべし。ニロの長ハ一キニヒトニの寛モ一キニヒトニして四角ならしめ其高ハ三キニヒトニ。其角ハ其より出法ム。ベシ。而してニロの上ニロの四傍ニ角セモ。小純金を着セシニ。周圍ふ金の線を作ルベシ。ヨハニ汝またラニ。兩面に金の線の下に金の環ニ箇を之ダために作るべし。即ちニロの兩傍に乙色を作ルべし。是するれち乙色を昇ビテ。ヨハニ社を貫ク所あり。ニロの社ハ合歡木をもて乙色を作リて之に金を着モベシ。ヨハニ色を律法の櫃の傍ある幕の前に置て律法の上に置る贖罪所に對はしむべし。其處ハわガ汝は會よ處なり。アロン朝ニニロの上に馨しき香を焚ベシ。彼燈火を盛ふる時は

ニロの上に香を焚ベキあり。アロン夕に燈火を燃す時ニニロの上に香を焚ベシ。是香ハエホバの前ニ汝等の代を絶すべからざる者あり。汝等ニ上に異る香を焚ベシ。ラニ燔祭をも素祭をも獻ぐべからず。又ニロの上に灌祭の酒を灑ぐべからず。アロン年に一回燔祭の罪祭の血をもてニロの壇の角のために脂を献すべし。汝等の代を年に一度是すために脂を献すべし。是ハニホバに最も聖き者たるヨハニ士エホバ、モーセに告て言たまひく。ニロヨイスラエルは子孫の數を數へホラぶるにあたりて彼等の各人ニの數へらる。時にヨハニ生命の脂をエホバにたてまつるべし。是ニロの數ふる時にあたりて彼等の中に災害のあらざらんためあり。且て數へらる者の中にに入る者は聖所のシケルに遵ひて半シケルを出すべし。シケルは二十ヶラなり。即ち半シケルをエホバにたてまつるべし。凡て數へらる者の中に入る者は即ち二十歳以上者の者ハエホバ

ふ獻納物をなすべし。汝らは生命を賄ふためはエホバに獻納物をふそにあたりてハ富者も半シケルより多く出すべからず。貧者も其より少く出すべからず。汝イスラエルの子孫より賄の金を取てこれを幕屋の用に供ふべし。是ハエホバの前にイスラエルは子孫の記念となりて汝らの生命を賄ふべし。モーセお告げ。言たまへく。故また銅をもて洗盤を巧く。りろの臺をも銅にて洗ふ。とのために供へ之を集會の幕屋と壇との間お置てろ。中にお水をいれおくべし。アロンとろの子等。いれわれお就て手と足を洗ふべし。乍彼等の集會の幕屋に入る時。お水をもて洗ふ。とを爲て死をまぬかるべし。亦壇。おち。クヅキ。てろの職をなし。火祭をエホバの前お焚く時も然すべし。即ち斯ろの手足を洗ひて死を免るべし。是れ彼等の子孫の代々常守るべき例あり。エホバまたモーセお言たまひけるハ。三汝また重立たる香物を取れ。即

ち淨没薬五百シケル。香しき肉桂。の牛二百五十シケル。香しき菖蒲二百五十シケル。且桂枝五百シケルを聖所のシケルお送ひて取り又橄榄の油一ヒンを取べし。三汝。これをもて聖灌膏を製へし。もれ。いち無物を製る法。お宏たおびて香膏を製るべし。是れ聖灌膏たる。あり。云。汝あれを集會の幕屋と律法の懶。お塗り毛案。とろの。もろ。もろの器具。燈臺。とろの。もろ。の器具。おまび香壇。云。並。お燐祭の壇。とろの。もろ。の器具。および洗盤。とろ。お塗。と。お塗。べし。故。是等を聖めて至聖。ち。おむべし。凡てあれ。お捐る者。ハ。聖く。おらん。手。汝アロン。とろの。子等。お膏。を。ろ。き。て。之。を。立。て。彼。ら。を。志。て。取。お祭司の職。ある。志。む。べし。三汝。イスラエルの子孫。お告。て。い。ふ。べ。し。是。れ。汝等。お。を。聖。物。と。お。す。べ。し。三。凡。て。之。お。等。き。物。を。製。る。者。凡。て。これ

を餘人につくる者はろの民の中より絶るべし言エホバモレに
言たまへく汝ナタフ、シケレヲ、ヘルベナの香物を取りろの香物を
淨き乳香に和あへすべしろは量リヤウハ各等カクノニシテから志むべきあり至汝み
色を以て香を製るべし即ち薫物を製る法ハシナフお志たゞひてみ色をも
て薫物を製り鹽ソルトをこきふくはへ潔く且聖セイクラムら志むべし云汝またろ
の幾分カクを細小摘カツカツて我ガ汝ハ會カミふところある集會カミの幕屋カマヤの中ノあ
る律法の前マジハおみ色ミハラシを供スルべし是ハ汝ハ等カクおいて最も聖セイクラム者モノなり
毛カシ汝ハ製スルどみろの香ハラハラい汝ハ等カクの量リヤウをもてこれを自己ガのため
製スルべらハ是ハ汝ハおいてエホバハのために聖セイクラム者モノたり云
凡て是ハ均ハシナフき者モノを製りてこ色ミハラシを喰スル者モノの民ヒトの中より絶るべ
し

第三十章 エホバモレに告て言たまひけるニ我ニダの支派カカハの水ミズの子コノコノあるウハリの子コノコノベザレルを名指スルて召スルミ列ミハラシの靈ミツバチをみ色

お充して智慧ハナタと了知ハシタと智識ハシタと諸の類ハシタの工ハシタと長志ハシタめと奇巧ハシタを盡スルし
て金銀ハシタと銅ハシタの作ハシタをあすことを得せ志ハシタめ玉ハシタを切り嵌ハシタめ木ハシタに
彫刻ハシタみて諸の類ハシタの工ハシタをあすみとを得せ志ハシタむ六ロク視ハシタよ我ガまたダンの
支派カカハのアヒサマクの子コノコノアホリアブハシタを與スルへて彼カク是ハもあら志ハシタむ凡
て心ハシタふ智ハシタある者モノお我智慧ハシタを授スルけ彼カク等カクを志ハシタて我ガお汝ハお命ハシタずる所モノの
事を盡スルくあるさ志ハシタむべしハシタ即ち集會カミの幕屋カマヤ律法ハシタの壇ハシタの上の贖罪ハシタ
所モノ幕屋カマヤの諸の器具ハシタ、安寧ハシタならびあるの器具ハシタ純金ハシタの燈臺ハシタどろの諸の
器具ハシタ、および香壇ハシタ、九煙祭ハシタの壇ハシタどろの諸の器具ハシタ、洗盤ハシタどろの臺ハシタ、ナ供職ハシタ
の衣服ハシタ、祭司ハシタの職ハシタをなす時に用ふるアロンの聖衣ハシタおよびろの子コノコノ等カク
の衣服ハシタ、および灌膏ハシタ、ならびに聖所ハシタの馨ハシタき香ハシタ是ハ等カクを我ガダ凡ハシタて汝
お命ハシタせしハシタごとくふ彼カク等カク製造ハシタべきるハシタリミエホバハモレに告て言ハシタ了
書ハシタひけるハシタ汝ハイカラエルの子コノコノ孫ハシタふ告スルて言ハシタべしハシタ汝ハ等カクおら
す是ハは我ガと汝ハ等カクの間ハシタの代々ハシタの微ハシタふして汝ハ等カクお

の汝等を聖うらむるエホバなるを知る爲の者なれをあり
古即ち汝等安息日を守るべし是ハ汝等ふ聖日なり凡て之
を讀毛者ハ必ず穀さるべし凡ての日ふ勞作をす人はるの民
の中より絶るべし蓋六日の間業をす毛べし第七日ハ大安息ふし
てエホバお聖あり凡て安息日お勞作をす者ハ必ず穀さるべし
お耶イスラエルの子孫ハ安息日を守り代々安息日を祝ふべし是
永遠の契約あり若是ハ永久お我等イスラエルの子孫の間の微な
るあり其ハエホバ六日の中お天地をつくりて七日お休みて安息
に入たまひたれをありエホバシナイ山かてモーセあ語る
を終たまひし時律法の板二枚をモーセお賜ふ是ハ石の板おして
利手をもて書したまひし者なり

扶民モーセお山を下ることの遅きを見民集りてアーロンの語を
に至り之に言けるハ起よ汝わきらを導く神を我等のた

めに作色其ハ我らをエラブトは國より導き上り志彼モーセ其入
如何になり志知き色なりアーロン色らに言けるハ汝等
の妻と息子息女等の耳にある金の環をとりはづ志て我に持きた
色どモ是にれいて民みなるの耳ある金の環をとりそづ志てア
ロンの語お持來りけきモアーロン色を彼等の手より取り難
をもて之形を造りて領を鏽なししたるに人々言エイスラエル
是は汝をエラブトの國より導きの意りし汝の神なりモアーロン
み色を見てる前に壇を築き而してアーロン宣告て明日ハエホバ
の祭禮なりと言ふモ是おいて人衆明朝早く起いでモ燔祭を獻
御廟恩祭を供ふ且生して飲食し起て獻るモモーセふ言た
まひけるハ汝往て下きモ汝ガエラブトの地より導き出せし汝の
民毛惡き事を行ふありハ彼等は早くも我モ彼等に命せし道を離
己のためお犠を鏽なしてろ色を拜み其に犠牲を獻げて言ふ
オ

スラエルよ是は汝をエジプトの地より導きのぼりし汝の神ありて
汝エホバまたモーセお言たまひけるは我みの民を觀たり視よ是
之項の強き民ありテ然を我を阻るるクモ我ら色らふ向ひて怒を
發して彼等を滅し盡さん而して汝を去て大なる國をあさまむべ
しモーセの神エホバの面を和めて言けるはエホバよ汝ると
て彼の大なる權能と強き手をもてエジプトは國より導きいた
したまひし汝の民にむきひて怒を發したまふや三何ぞエジプト
人を去て斯言志むべけんや曰く彼ハ禍をくだして彼等を山に殺
し地の面より滅し盡さんとて彼等を導き出せしよりと然を汝の
烈き怒を息め汝の民にあの禍を下さんとせしを思ひ直したまへ
ま汝の僕アブラハム、イスラエルを憶ひたまへ汝は自己さ
して彼等に誓ひて我天の星のおとくに汝等の子孫を増し又見づ
言ふところの此地をみてく汝等の子孫にあたへて永くみを

を有た志めんと彼等に言たまへりと古エホバ是においてるの
民にわざひく神を降んさせしを思ひ直したまへり且モーセするやち身を
轉て山より下れりの律法の二枚の板の手にあり此板ハ
言ふところの此地をみてく汝等の子孫にあたへて永くみを
ま汝の兩面に文字あり即ち此面にも彼面にも文字ありま此板ハ神の
作ありまた文字ハ神の書にして板に彫つけてありモヨシニア民
の呼くる聲を開てモーセにむろひ營中に戰爭の聲すと言け色を
青モーセ言ふ是れ腰闊の聲にあらず又敗北の號呼聲にもあらず
我聞とふるものハ歌唱ふ聲なりと云斯てモーセ營に近づく
に及びて狼と舞蹠を見たと怒を發してろの手よりの板を擲
ちこゑを山の下に碎けり而して彼等ダ作りし犠をとりてこれ
を火に焼き碎きて粉となしてこれを水に撒きイスラエルの子孫
に之をのま放むモーセ、アロンに言けるハ此民汝に何をして
か汝れらに大なる罪を犯させしや三アロン言くるハ吾主より怒

を發したまふ勿忌此民の憑なるハ汝の知とみろなり三彼等われ
お言けらく我らを導く神をわ邑らのため小作邑其れ我らをエヨ
ブトの國より導き上り志彼モ一セ其人ハ如何おなり志る知され
をありと旨是おおいて我凡て金をもつ者ハコレをとりそブせ
彼等お言け色を則ちコレを我に與へたり我あれを火あ投たれを
此種出きたれりと至モ一セ民を嬴る本縦肆ふ事をなすアロン彼
等をして縦肆ふ事をあさあめたれを彼等ハロの敵の中ふ嘲笑と
されるなり云々茲にモーセ營の門お立ち凡てエホバ小歸する者
我に來れと言けれどレビの子孫みみ集りてられお至るモ一セ
すみハチ彼等お言けるハイスラニルの神エホバ斯言たまふ汝等
おのゝ劍を儀たへて門より門と戯の門を處此處に行めやう
て各人ろの兄弟を懲し各人ろの作化を教し各人ろの鄰人を懲せ
べしと云レビの子孫すみハチモーセの言のおとくお爲たきをろ
せり今我エホバの許お上りゆるんとす我あんならの罪を贖ふを
得るてともあらんモ一セすみハチエホバに歸りて言けるハ嗚呼
今日福祖を得まモ明日モ一セ民お言けるハ汝等ハ太ある罪を犯
せり

の日民凡三千人殺されたり元是お於てもモ一セ言ふ汝等おのゝ
子をもろの兄弟をも願ず志て今日エホバお身を獻げ而して
今日福祖を得まモ明日モ一セ民お言けるハ汝等ハ太ある罪を犯
せり今我エホバの許お上りゆるんとす我あんならの罪を贖ふを
得るてともあらんモ一セすみハチエホバに歸りて言けるハ嗚呼
呼この民の罪ハ大ある罪なり彼等は自己のためお金の神を作邑
あり當然とるなはハ彼等の罪を赦したまへ然すを願くは汝の書志
あるしたまへる書の中より吾名を説きたりまへシエホバモ一セ
お言たまひけるは凡てわれに罪を犯毛者を我おこれをおび書より
捕さらん看然を今往て民を我お汝につげたる所に導けよ吾使者
汝お先だちて往ん但しわ吾罰をおくるふ日には我き邑らの罪を
罰せん豈エホバすみハチ良を擧たまへり是はあれら續を遣りた
るお因る即ちアロンことを造り志あり

聖三子十三國、茲にエホバ、モーセが言たまひけるハ汝と汝のエロブトの國より導き上り志民此を起いでて吾アアラヘヌ、イサク、ヤコブは誓ひて之を汝の子孫ふ與へんと言しろの地に上のべしニ我一の使を遣して汝ふ先だモ志めん我カナン人、アモリ人、ヘテ人、ヘリシ人、ヒヒ人、エザス人を逐はらひ三なんぢらを志て乳と蜜の流るゝ地、おいたら志むべし我ハ汝の中ふ毛りてい共ふ上らヒ汝は項の強き民なきを恐くハ我遂おて汝を滅すにいたらん。民この惡き告を聞いて憂へ一人もろの妝飾を身につくる者あしヨエホモ、モーセに言たまひけるハイスラエルの子孫に言へ汝等ハ項の強き民あり我もし一刻も汝の中にありて往を汝を滅すにいたらん然ぞ今汝らの妝飾を身より取すてよ然せば我汝ふ爲べきあどを知んとハ是をもてイスラエルの子孫ホレブ山より以來はるの妝飾を取すて多居ぬセモーセ幕屋をとりてお色を營の外に張て幕屋にいるまで各々の天幕の門口に立てかきを見るモーセ幕屋あいそを雲の柱くだりて幕屋の門口は立つ而志てエホバ、モーセどものいひたまふ十民みる幕屋の門口お雲の柱の立つを見られを念みる想て各人の天幕の門口にて拜をあす。人々の友に言談おとくにエホバモーセと面をあはせてものいひたまふモーセの天幕に歸り志ガロの僕ある少者メンの子ヨシエアハ幕屋を離きりきさ茲モーセ、エホバに言けるハ視たまへ汝はみの民を導き上れど我に言たまひるダラ誰を我思ふもに遣したまふかを我に志ら志めたまは汝うつて言たまひけらく我名をもて汝を知る汝はまた我前に恩を得たりと自然ぞ我もし誠に汝

の前に思を得たらを願くは汝の道を我に用意て我に汝を知
來め我を志て汝の前に思を得せ志めたまへ又汝みの民の汝
の有あるを念たまへ吉エホバ言たまびけるい我親汝と其にゆく
べし我汝を志て安泰にあらんめん主モーセエホバに言けるれ汝
もしみづきら行たまひすを我等を此より上ら志めたまふ勿邑
我と汝の民とダ汝の前に思を得るとは如何にして知るべ
きや是汝も我等どまもお往たまひて我と汝の民とダ地の諸の民
ふ異なる者どあるにまるにあらずや主エホバモーセに言たまびけ
るハ汝ダ言るみの事をも我爲ん汝のわタ目の前に思を得た色を
あり我名をもて汝を知り莫モーセ願くそ汝の榮光を我に用意
たまへと言けれどもエホバ言たまゆく我尼ダ諸の善を汝の前お
通ら志めエホバの名を汝の前に宣ん我の恵んとする者を恵み備
えんとする者を憐むあり主又言たまはく汝はわが面を見る事と
吾面は見るべきにあらず

あたりず我を見て生る人あらざれをありと而してエホバ言たま
ひけるの視よ我傍にの處あり汝鑄は主に立べし三看榮光其
處を過る時に我あんちを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をも
て汝を蔽ひん吾而してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし
吾面は見るべきにあらず

鑄は主エホバモーセに言たまひけるの汝石の板二枚を
前のほどくに研て作れ汝を碎きし彼の前の板にありし言を我う
の板に書さんニ詠朝までに準備を畢し朝の中はシナイ山に上り
山の巔に於て吾前に立て三誰も汝どまもに上るべからず又誰も
手に二枚の石の板をとりエホバの命ヒたまひしことくにシナイ
山の中には居べからず又の山の前にて羊や牛を牧ふべからず
モーセすなり石の板二枚を前のほどくお砌て造り朝早く起て
山杖のぼりやけり王エホバ雲の中にあるて降り彼どまもに其處

に立ちてエホバの名を宣たまふ。エホバすゑに彼の前を過て宣たまへくエホバ、エホバ情憫あり恩恵あり怒る事の遅く恩恵と其實比大なる神。七恩恵を千代まで施し惡と過と罪とを赦す者又罰すべき者を必ず赦そことをせず父は罪を子ふ報い子の子ふ報いて三四代におよぼす者エモ一セ急ぎ地歩躬を鞠めて拜し言けるエホバよ我もし汝は目は前に恩を得たらば願くわ主我等の中おいまして行たまへ是れ項の強き民をなり我等の惡と罪を赦し我等を汝の所有とあるしたまへエホバ誓たまふ視よ我契約をあす我未だ全地おかれし事あら歩何れ國民の中にも行はれし事あらざるとてろの奇跡を汝の總帥の民の前に行ふべし汝が住とてろの國のみみるエホバの所行を見え我ヲ汝をもて爲とてろの事の怖るべき者ありナ汝わざ今日汝に命ずるとてろの事を守れ視よ我アモリ人、カナン人、ヘテ人、ヘリヤ人

ヒ人、エイス人を汝の前より遙はらふ。汝みづから慎め汝が往きてるの國の居民と契約をむすぶべからず恐くは汝の中おいて櫛櫛とることあらん。汝かへれて彼等の祭壇を崩しろの偶像を毀ちろのアシラ像を研たふそへし當汝ハ他の神を拜むべからず其はエホバの名を嫉妬と言て嫉妬されがふり然ば汝の地の居民と契約を結ぶべからず恐くは彼等の神々を慕ひて其と姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々をさゝぐる時に汝を招きてるの犠牲に就て食はまむる者あらん。又忍く汝うれも汝女子等を汝の息子等ふ妻すことありて彼等の女子等の神々を慕ひて姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫をあてあひ玄むるにいたらん。汝おのれのために神々を銷るすべからず。○汝無醜パンの節籠を守るべし即ち我お汝に命ぜしくアゼアの月のろの期をおよびて七日の間無醜パンを食ふべ

し其の汝アヒブの月ふエジプトより出たれをありま首先なる者は皆吾の所有あり亦汝の家畜の首出の牡ある者も牛羊等もは皆本よりニ但し驢馬の首出ハ羔羊をもて頤ふべし若し頤くナガロの頭を折ベシ汝の息子の中の初子は皆順ふべし我前に空手にて出るものあるベカラすニ六日の間汝創作をあし第十七日に休むべし耕耘時にも收刈時にも休むべし三汝七週の節筵すあひち麥秋の初穂の節筵を爲し又年の終に收穫の節筵をあそべし三年間に三回汝の男子みな主エホバイスラエルの神は前に出べし旨我國々の民を汝の前より遷はらひて汝の境を廣くせん汝が年あ三回のばかりて汝の神エホバのまへに出る時に誰も汝の國を取んとする者あらヒ云汝わる犠牲の血を有酵パンどもお供ふべカラす又逾越の節の犠牲ハ明廟まで存しおくベカラさるあり云汝の土地の初穂の初を汝の神エホバの家お掘ふべし汝山羊羔をろの母

の乳にて煮へうらすモスアエホバモーせに言たまひけるれ汝是等の言語を書志るせ我等の言語をもて汝およびイスラエルと契約をひすべざるに四十日四十夜其處に居る食料をも食す水をも飲さりきエホバの契約の詞ある十日諭をうの板の上に書したまへり○元モーせの律法の板二枚を己の手お執てシナイ山より下り立るゝの山より下り志時モーセはろの面の己タエホバと言ひしによりて光を發つを知りきミアロンおよびイスラエルの子孫モーを見ての面の皮の光を發つを曉悟きて彼お近づきあしテバニモーせの名を呼りアロンおよび會衆の長等するハチモーの所に歸りたれをモーセ彼等と言ふ三斯ありて後イスラエルの子孫みる近よりけれベモーセエホバダレナイト山にて己お告たまひし事等を盡くこれに諭せり三モーセクをも語ふことを終て覆面帖をうの面にあて

たり言但しモーセはエホバの前ふいりてともお語ることある時はろの山るまで覆面帖を除きてをり出たたりてろの命せられ事をイスラエルの子孫お告ぐ暨イスラエルの子孫モーセの面を見るにモーセの面の皮光を登つモーセに入てエホバぞ言ふまでたろの覆面帖を面ふあてをる

聖三十五章一モーセ、イスラエルの子孫の會衆を盡く集てみ是に官ふ是はエホバダ爲せと命じたまへる言ふりニ即ち六日の間は動作を爲べし第七日は汝等の聖日エホバの大安息日あり凡ての日お動作をあす者は殺さるべしニ安息日には汝等の一切の住處に火をたく可らず○二モーセ、イスラエルの子孫の會衆お徳く告て言ふ是はエホバの命じたまへるどてろの事ありエ曰く汝等ある物の中より汝等エホバふ獻ぐる者を取べし凡て心より願ふ者ハ其を攝へきたりてエホバに獻ぐべし即ち金銀銅、青紫紅

の縫、麻糸、山羊の毛、赤染の牡羊の皮羅の皮、合歡木、燈油、灌膏と香しき香をつくる香物、葱頭、エボデと胸牌お嵌る玉ナ凡て汝等の中の心お智慧ある者來りてエホバの命じたまひし者を悉く造るべし即ち幕屋ろの天幕ろの頂蓋ろの鉤の版ろの横木ろの柱ろの座まろの櫃とろの杠、頤罪所、障蔽の幕、案子とろの杠およびろの諸の器具、供前のパン、燈明の臺ろの器具とろの蓋および燈火の油、香壇とろの杠、膏脂しき香、幕屋の入口の幔、燔祭の壇およびろの銅の網ろの杠ろの諸の器具洗盤とろの臺、老庭の幕ろの柱ろの座、庭の口は幔、幕屋は釘、庭の釘およびろの紐、老聖所にて職をあすとろの供職の衣、即ち祭司の職をあす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣、および其子等の衣服、予斯てイスラエルの子孫の會衆みるモーセの前を離れて去し、凡て心に感したる者、凡て心より願ふ者、來りてエホバへの獻納物を攝へいたり

集會の幕屋とろの諸の用に供へ又聖衣のためふ供へたり三即ち凡て心より願ふ男女ともに環鎖耳環指環頭玉諸の金の物を描へいたより又凡て金の獻給物をエホバに爲そ者も然せり三凡て青紫紅の縁および麻縫山羊の毛赤染の牡羊の皮羅の皮ある者は是を描へいたり言凡て銀および銅の獻給物をあす者ハム旦を描へきたりてエホバに獻げ又物を造るふ用ふべき合歡木ある者ハ其を描へいたよりまた凡て心より智慧ある婦女等の手をもて妨ぐみどをあしろの妨きたる者ある青紫紅の縁および麻縫を描へきたり云凡て智慧ありて心ふ感したる婦人ハ山羊の毛を紡げり毛又長たる者ともハ葱珩およびエボニア胸牌に嵌べき玉を描へいたり云燈火と灌膏と馨しき香とに用ふる香物と油と油を描へいたよりエスラエルの子孫悦んでエホバに獻給物をあせり即ちエホバモトセに藉て爲せと命セたまひし諸の工事をあさ

しむるために物を描へきたらんと心より願ふところの男女ハ皆是のみとくにあしたり○ヨセフセイスラエルの子孫に言ふ觀よエホバニダの支派のホルの子あるウリの子ベザレルを名指て召めたまひ三種の靈をこそに光して智慧と了知と知識と諸の類の工事に長才め三奇巧を盡して金銀および銅の作をあすことを得せ事に長才め三奇巧を盡して金銀および銅の作をあすことを得せ志め瑠璃を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をあすて道を得せしめ吾彼の心を明らかにして教ふることを得せ志めたまふ彼はダンジンの支派のアヒサマクの子アホリアブ併に然りエスラエルの心を彼等に充して諸の類の工事をあすことを得せ志めたまふ即ち彫刻文織および青紫紅の絲と麻縫は刺繡並に機織等見て諸れ類は工をあすことを得せ志め奇巧をみ色に盡さ志めたまふあり

第三十章一僧ベザレルとアホリアブおよび凡て心の細敏き人即ちエホバダ智慧と了知をあたへて聖所の用ふ供ふるところの諸

の工をあすことを知得せしめたまへる者等ハエホバの見て命じたまひし如くに事をあそべありしニモレセすなれどアーヴリアブおよび凡て心の頗敏き入するはちろの心アエホバダ智慧をさづけたまひし者凡ろ來りてろの工をあさんと心に望むとみろの者を召よせたりニ彼等ハ聖所の用ふろあふるところの工事をなさ玄むるため小イスラエルの子孫ダ描へきたりしきの獻納物をモーセの手より受どりしダ民ハ尙また朝きて自意の獻納物をモーセに持きたるロ是に於て聖所の諸の工をあすところの智人等みる各々ろの爲どみろの工をやめて來りモーセふ告て言けるハ民餘りに多く持きたればエホバダ爲せと命じたまひし工事をあす用ふる余餘ありとモサセすあはち命を傳へて營中は宣布来て云く男女ともに今よりハ聖所お獻納物をなすに及ばずとはをもて民は描へきたることを止たりセ其はろ

の有りみろの物すでに一切の工をあすに足て且餘あれどありハ備ケ彼等の中心お智慧ありてろの工を爲るとみろの者十の幕をもて幕屋を造色りろの幕は麻の撚絲と青紫紅絲をもて巧にケルビムを織る志て作れる者ありたるセ幕は各々長二十八キヨピトロ比幕ハ各々寛四キヨピトロの幕はみるす尺一ありナ而してろ比幕五箇を互に連ねあひせ又ろ比幕五箇をたゞひに連ねあひせ第一聯の幕は邊においてろの連絡處の端ふ青色の禪を造り又他の一聯の幕は邊においてろの連絡處ふみ色を造りナ一聯比幕に禪五十をつくりました他比第一聯比幕の連絡處の邊ふも禪五十をつくよりろ比幕ハ彼と此と相對す面して金の鉤五十を列くなりの鉤をもてろ比幕を彼と此と相連ねた色を一箇比幕屋とある當又山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋は上の天幕とあせりうの造れる幕ハ十一ありまろ比幕は各々長三十キヨピトロ比幕は

おのく 宽四キニヒトトして十一の幕は寸尺同一あり焉るは幕五を一幅ふ連ねまたろは幕六を一幅ふ連ね焉るの幕の邊ふおいて連絡處お襯五十を作くり又次に一連は幕の邊ふも襯五十をつくれり又鋪は鋪五十をつくりてろは天幕をつらねあへせて一とるらしめ赤染の牡羊の皮をもてろの天幕の頂蓋をつくりてろの上あ蘿の皮の蓋を設けたり○又合歡木をもて幕屋の堅板をつくより三板の長は十キニヒト板の寬は一キニヒト半三の一の板小二の排ありて彼と此と交指ふ幕屋は板には皆ろくのひとく造りあせり又幕屋はためふ板を作り即ち南ふ於ハ南の方ふ板二十枚旨ろの二十枚の板の下ふ銀の座四十をつくより即ち此板の下ふも二の座ありてろの二の排を承く又幕屋の他の方すなはちろの北の方のためふも板二十枚を作り矣又ろは銀は座四十をつくれり即ち此等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是板の下ふも二の座ありてろの二の排を承け彼板の下ふも二の座ありてろの二の排を承く又幕屋の他の方すなはちろの北の方のためふも板二十枚を作り矣又ろは銀は座四十をつくれり即ち此等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是板の下ふも二の座ありてろの二の排を承け彼板の下ふも二の座ありてろの二の排を承く又幕屋の他の方すなはちろの北の方のためふも板二十枚を作り矣又ろは銀は座四十をつくれり即ち此等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是

板は下ふも二枚座あり彼板は下ふも二枚座ありモ又幕屋は後面するひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是板の下ふも二の座ありてろの二の排を承く又幕屋の他の方すなはちろの北の方のためふも板二十枚を作り矣又ろは銀は座四十をつくれり即ち此等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是板の下ふも二の座ありてろの二の排を承く又幕屋の他の方すなはちろの北の方のためふも板二十枚を作り矣又ろは銀は座四十をつくれり即ち此等の二隅はためお設けたる者あり手ろは板八枚あうろは座はするひちろは西のために板六枚を作くり又幕屋の後れ兩隅のためふ板二枚宛をつくれり元ろは二枚へ下にて相合しろは頂までひよ連みれり一箇れ環に於て然りろは二枚ともお是れみどし是

四本の柱を打くりてこそ五金を着せたりろの鉤は金あり又銀をもてこれるために座四を飾たり毛又青、紫、紅の絲および麻の繩をもて幕屋の入口に掛る帳を織なし焉ろは五本は柱とろは鉤とを造りろの柱は頭と柄五金を着せたり但しろは五本は柱は銅ありき

一
ベザレル合歡木をもて櫃をつくせりろの長は二キユビト半、うの寬は一キユビト半、うの高は一キユビト半、ニ面して純金をもてうの内外を蔽ひてろの上の周圍五金の線を造れり三又金の環四箇を鑄てろの四の足につけたり即ち此旁ふ二箇の輪、彼旁ふ二箇の輪を付く口又合歡木をもて杠を作りてあれ五金を着せヨロの杠を櫃の旁の環ふさしいれて之をもて櫃をりくべるらしむ六又純金をもて贖罪所を造りきろの長は二キユビト半、うの寬は一キユビト半、うり七又金をもて二箇のケルビムを作れり即ち

櫃みて打て之を贖罪所の兩傍に作りハ一箇のケルビムを此方の末か一箇のケルビムを彼方の末か置り即ち贖罪所の兩傍ふケルビムを作れりケルビムは翼を高く展べ其翼をもて贖罪所を掩其面をたゞひに相向く即ちケルビムの面は贖罪所に向ふ十又合歡木をもて案を作り其長は二キユビト其寬は一キユビト其高は一キユビト半、ニ面て純金を之に着せ其周圍五金の線をつけま又其四圍ふ掌寬の邊を作り其邊の周圍五金の小線を作り當而て之が爲五金の環四箇を鑄其足の四隅ふ其環を付たり當即ち環は邊の側ふ在て案を昇く杠を入れる處あり當而て合歡木をもて案を昇く杠を作て之を金を着せたり又案の上の器具即ち皿、匙、杓及び酒を灌ぐ壺を純金にて作り毛又純金をもて一箇の燈臺を造り即ち燈籠をもて打て其燈臺を作り其臺座、袖、夢籠及び花は其ふ連の大らの枝の傍より出づ即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺

の三の枝は彼旁より出づ。巴旦杏の花の形せる三の萼、節および花ともも此枝もあり。又巴旦杏の花の形せる三の萼、節および花ともも此枝もあり。燈臺より出る六の枝みる斯のみとし。平巴旦杏の花の形せる四の萼の節および花ともに燈臺があり。二箇の枝の下ふ一箇の節あり。又二箇の枝の下ふ一箇の節あり。燈臺より出る六の枝みる是のさせし箇の枝の下ふ一箇の節あり。又巴旦杏の花の形せる三の萼、節および花ともも此枝もあり。又合歡木をもて香壇を造り。又金の環二箇をあきだため。又作色り即ち。の兩の高は二キユビトにして。の角は其より出づ。ころの上ろの四傍の角ともに純金を着せろ。の周圍に金の縁を作れり。又の兩面五金の縁の下ふ。金の環二箇をあきだため。又作色り。即ち。の兩

旁ふみれを作る是すなはち之を异どみろの杠を置くとみろあり
又合歡木をもてろの杠をつくりて之に金を着せたり又薰物
をつくる法に志たゞひて聖灌膏と香物の清き香とを製色り
第三十八章 又合歡木をもて燔祭はんさいの壇を築けりろ此長は五キニセ
其高は五キニセトにして四角ろの高は三キニセトニ面してろ
此四隅は上に其の角を作りてろの角を其より出志めろの壇に
銅どうを着せたりニ又ろの壇の諸の器具するはち盞と火鍊と鉢と肉
叉と火鼎を作り壇の器のみな銅おて造る曰又壇のため小銅の
網を引くりあ色を壇の中程の邊の下に置て壇の半に達せしめ
五ろの銅の網の四隅ふ四箇の環を錯て杠を貫く處とおしハ合歡
木をもてろの杠をつくりて之に銅を着せセ壇の兩傍の環ふろの
杠をつらぬきて之を昇へらしむろの壇は板をもてあれを空に
つく色りハよた銅をもて洗盤をつくりろの臺をも銅にす即ち集

會は幕屋の門にて役事をあすとふろは婦人等の鏡をもて之を作
きり又庭を作り南に於ては庭の南の方に百キユビトの細布
の幕を設く。柱は二十ろの座は二十ふして其ふ銅あり。柱
の鉤および柄は銀なり。北の方にハ百キユビトの細布
の柱は二十ろの座は二十ふして其ふ銅あり。柱は鉤と柄は銀
あり。西の方にハ五十キユビトの幕を設く。柱は十ろの座
の柱は三ろの座も三、即ち庭の門に此旁彼旁とも必然り。庭の周
囲の幕はみる細布。柱の座は柱の頭の包と柄は銀
あり。庭の柱はみる銀は柄にて連る。庭の門の幔は青、紫、紅
の絲および麻の撚糸をもて織ししたる者なり。長は二十キ
ユビト。

柱は四ろの座は四、而して其ふ銅うの鉤は銀うの頭の包と柄は銀
なり。幕屋および三の周圍の庭の釘はみな銅あり。幕屋おつたり
る物。そるはち律法の幕屋ふつける物を量る。左のとじ祭司ア
ロンは子イタマルモーセの命を志たびてレヒ人を率ゐ用ひて
石を量る。三ユダの支派のホルの子あるウリの子ベザレ
ルにてニホルのモーセが命をなせり。ミダンの支
派のアヒサマクの子アホリアブ。彼ともにありて雕刻織文をあ
し青、紫、紅の絲および麻絲をもて文織をあせり。聖所の諸の工
作をあそふ用たる金は聖所のシケル。あたおひて言へ都合二十
九タルシト七百三十シケル。是するはち献納たる。みるの金
あり。會衆の中の核數ら。其の獻げし銀を聖所のシケル。お志
たおひて言へ百タルシト千七百七十五シケルなり。云凡て數らる。

る者の中ふ入り者即ち二十歳以上者六十萬三千五百五十人ありた。且バ聖所のシケルふ本たゞひて言ひ一人に一ペカある是す。あそち半シケルなり。又百タラントの銀をもて聖所の座と幕、は座を鋪たり。百タラントをもて百座を鋪く。是を一座する。わら一タラントあり。又千七百七十五シケルをもて柱の鈎を鋪く。柱の頭を包み。又柱を連ねあひせたり。又戲網たる者てろの網。七十タラント二千四百シケルなり。是をもあひて。聚會は幕屋の門の座を鋪く。又銅の壇。どろの銅の網。よび壇は諸の器具を鋪く。又庭の周圍の座と庭は門は座。又幕屋の體の釘と庭の周圍の計の釘を作り。

第三十九章 青、紫、紅の絲をもて聖所にて職をなすとみろの供職の衣服を製り亦アロンのため。又聖衣を製りエホバのモーセ。ふ命じた。まひしだとくせり。又金、青、紫、紅は絲および麻れ撚糸をも。ありて之を束ねる。とろの帶はるの帶はるの物同じうして其の製のこと。し即ち金、青、紫、紅の絲および麻の撚糸をもて製る者あり。エホバのモーセに命じた。まひしだとくせり。又葱垢を琢て金の槽に嵌め印を刻む。おとくにイスラエルの子等の名をあきふ講内け。あれをエホバの肩帶の上につけて。イスラエルの子孫の記念の玉を。さらしむ。エホバのモーセに命じた。まひしだとし。また胸牌を巧み。お織なし。エホバの製のこと。くふ金、青、紫、紅の絲および麻の撚糸をもて。み色を製。且つ胸牌は四角。かして之を二重。か付け。なれを二重。かして。ろの長半キユビト。の潤半キユビト。あり。ラの中。お玉四行。を嵌む。即ち赤玉、黄玉、瑪瑙の一行を第一行。とす。さ第二行。

は紅玉、青玉、金剛石、十三第三行、深紅玉、白瑪瑙、紫玉、十三第四行、黃綠
 玉、葱斯碧玉、凡て金の棺の中、おみれを枕たり。吉ろの玉ハイスラニ
 ルの子等の名ふ。太たるひ其名のとくか之を十二おなし而して
 印を刻む。さて、おろの十二の支派の各々の名をみれ。お銷つけた
 り。又純金を紐のとくあ組たる鎧を胸牌の上、おつけたり。又
 金をもて二箇の槽をつくり。二の金の環をつくり。の二の環を胸
 牌の兩の端、ふつけ。もうの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環あつ
 けたり。而して、ろの二條の紐の兩の端を二箇の槽を結ひ。エボデ
 の肩帶の上、お付け。て、の前、おあら。志む。又二箇の金の環をつく
 ちて、之を胸牌の兩の端、ふつけ。たり。即ち、ろのエボデ、お對ふ。と
 ろの内、邊ふみれを付く。また、金の環、二箇を造りて、みれをエボデ
 の兩傍の下の方、おつけて。ろの前、おて、ろの聯接する處、お對て。
 エボデの帶の上、おあらしむ。胸牌れ、青紐をもて。ろの環よりて、之
 おみれをついたり。云即ち、鈴、小石榴、鈴、小石榴と供職の明衣の襷の
 青、紫、紅の撚絲をもて。石榴を作りつけ。又純金をもて。鈴をつく
 り。ろの鈴を明衣の襷の石榴の間、おつけ。周圍、おおいに石榴の間々
 おみれをつけたり。云即ち、鈴、小石榴、鈴、小石榴と供職の明衣の襷の
 周圍、おつけたり。エホバのセレに、命したまひしことし。云又アモ
 ン。とろの子等のため、お織布をもて。裏衣を製り。又細布をもて。頭帽を
 製り。細布をもて。美しき頭巾をつくり。麻の撚絲をもて。襟をつくり
 云。麻の撚絲および青、紫、紅の絲をもて。帶を織みせり。エホバのモ
 リセ。命令したまひしことし。又純金をもて。聖冠の前板をつくり
 いふを刻び。ごとく。おろの上に。エホバに聖といふ文字を書つけ。三益

は、紅玉、青玉、金剛石、十三第三行、深紅玉、白瑪瑙、紫玉、十三第四行、黃綠
 玉、葱斯碧玉、凡て金の棺の中、おみれを枕たり。吉ろの玉ハイスラニ
 ルの子等の名ふ。太たるひ其名のとくか之を十二おなし而して
 印を刻む。さて、おろの十二の支派の各々の名をみれ。お銷つけた
 り。又純金を紐のとくあ組たる鎧を胸牌の上、おつけたり。又
 金をもて二箇の槽をつくり。二の金の環をつくり。の二の環を胸
 牌の兩の端、ふつけ。もうの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環あつ
 けたり。而して、ろの二條の紐の兩の端を二箇の槽を結ひ。エボデ
 の肩帶の上、お付け。て、の前、おあら。志む。又二箇の金の環をつく
 ちて、之を胸牌の兩の端、ふつけ。たり。即ち、ろのエボデ、お對ふ。と
 ろの内、邊ふみれを付く。また、金の環、二箇を造りて、みれをエボデ
 の兩傍の下の方、おつけて。ろの前、おて、ろの聯接する處、お對て。
 エボデの帶の上、おあらしむ。胸牌れ、青紐をもて。ろの環よりて、之
 おみれをついたり。云即ち、鈴、小石榴、鈴、小石榴と供職の明衣の襷の
 青、紫、紅の撚絲をもて。石榴を作りつけ。又純金をもて。鈴をつく
 り。ろの鈴を明衣の襷の石榴の間、おつけ。周圍、おおいに石榴の間々
 おみれをつけたり。云即ち、鈴、小石榴、鈴、小石榴と供職の明衣の襷の
 周圍、おつけたり。エホバのセレに、命したまひしことし。云又アモ
 ン。とろの子等のため、お織布をもて。裏衣を製り。又細布をもて。頭帽を
 製り。細布をもて。美しき頭巾をつくり。麻の撚絲をもて。襟をつくり
 云。麻の撚絲および青、紫、紅の絲をもて。帶を織みせり。エホバのモ
 リセ。命令したまひしことし。又純金をもて。聖冠の前板をつくり
 いふを刻び。ごとく。おろの上に。エホバに聖といふ文字を書つけ。三益

お青細をつけて之を頭帽の上に結つけたりエホバのモーセお命じたまひし始し○ミース集會の天幕ある幕屋の諸の工事成ぬイエラエルの子孫エホバの凡てモーセお命じたまひしとくお爲て斯おみるへり言人衆幕屋と天幕とろの諸の器具をモーセの詩に携へいたる即ちろの鉤ろの板ろの横木ろの柱ろの座旨赤染の牡羊の皮の蓋、雄の皮の蓋、障蔽の幕、律法の櫃とろの杠、贖罪所、案の諸の器具、供前のパン、毛純金の燈臺とろの蓋するハチ陳列る燈盞とろの諸の器具ならびふろの燈火の油、金の壇、瀝膏、香、幕屋の門の幔子、金鋼の壇、うの銅の網とろの杠およびろの諸の器具洗盤とろの臺、旱庭の幕、うの柱、とろの座庭の門の幔子、ろの網とろの釘あらびる幕屋ふ用ふる諸の器具、集會の天幕のために用ふる者聖所みて職をあすとふろの供職の衣服即ち祭司の職をあす時に用ふる者ある祭司アロンの聖衣およびろの子等の衣服、ミース

エホバの凡てモーセに命じたまひしとくにイスラエルの子孫の諸の工事をあせり、モーセの一切の工作を見るにエホバの命じたまひしとくに造りてあり即ち是のとくお作りてあり世人衆を觀せり

四十一章
一
エホバモーセお告て言たまひけるはニ正月の元日に故集會の天幕、幕屋を建べしニ而して汝うの中、小律法の櫃を置ふ幕をもてろれ櫃を障蔽し又案を擱へいり陳設の物を陳設け且燈臺を擱へいりてろの燈盞を置うべし玉汝また金の香壇を律法の櫃の前、お置ゑ幔子を幕屋の門に掛けた燔祭の壇を集會の天幕の幕屋の門の前に置ゑ、セ洗盤を集會の天幕とろの壇の間お置ゑて之ふ水をいきハ庭の周圍に藩籬をたて庭の門、お幔子を垂れ、而して懸音をとりて幕屋とろの中の一切の物お置きて其の諸の器、具を聖別へし是聖物とあらんナ汝また燔祭の壇と

ろの一切の器具に膏をろよきてろの壇を聖別べし壇は至聖物であるらん吐又洗盤どろの壇に膏をろよきて之を聖別めナアロンどろの子等を集會の幕屋の門につきたりて水をもて彼等を洗ひ吉アロンれ聖衣を着せ彼が膏をろよきてみをを聖別め彼をして祭司の職を我にあるさ志むへし古又あれの子等をつれきたりて之職を我あるさ志むへし彼等の膏ろよぎれて祭司たるみとは代々變ちざるべきあり矣モセろく行へり即ちエホバの己ふ命じたまひし如くお爲たり也第二年の正月おいたりてろの月の元日あ幕屋建ぬ大乃ちモーセ幕屋を建てろの座を置ふろの板をたてろの横木をさしみみろの柱を立て末幕屋の上お天幕を張り天幕の蓋をろの上に得とみせりエホバのモーセふ命ヒ給ひし如し平而してられ律法をどりて櫃小藏め杠を櫃ふつけ順罪所を櫃の上お

置ふニ櫃を幕屋に擱へいり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりエホバのモーセふ命ヒたまひしとし三彼また集會の幕屋において幕屋の北の方にてろの幕の外に案を置ふ三供前のパンをろの上にエホバの前に陳設たりエホバのモーセふ命ヒたまひし如し旨又集會の幕屋において幕屋の南の方に燈臺をおきて案おむのはしめ三燈盞をエホバの前ふク上げたりエホバのモーセに命ヒたまひしとし三又集會の幕屋においてるの幕の前に金の壇を居ふモロの上に馨き香を焚りエホバのモーセに命ヒたまひし居ふモロの上に馨き香を焚りエホバのモーセに命ヒたまひし如し三又集會の天幕どろの壇の間に洗盤をおきひとしとし又幕屋の門に幔子をなれ三又集會の天幕の幕屋の門に燔祭の壇を置ふろの上に燔祭と素祭をさしきたりエホバのモーセに命ヒたまひし如し三又集會の天幕どろの壇の間に洗盤をおき其の水を入れて洗ふみどの爲にす三モーセアロンおよびろの子等につきて手足を洗ふ即ち集會の幕屋に入る時または壇に

近づく時に洗ふてとをせりエホバのモーセに命じたまひしがと
し雲また幕屋と柱の周囲の庭に牆籬をたて庭の門に帳子を垂ね
是モーセの工事を竣たり旨歎て雲集會の天幕を蓋てエホバの
榮光幕屋に充たり旨モーセは集會の幕屋にいることを得さりき
是雲の上に止り且ニエホバの榮光幕屋に蓋たればあり云々雲幕屋
の上より昇る時あはイスラエルの子孫遂に進めり其途々見て然
り毫然と雲の昇らざる時にハロの昇る日まで遂に進むてとをせ
ありきえ即ち雲は幕屋の上エホバの雲あり夜ハロの中ふ火あ
リイスラエルの宗の者皆これを見るの途々すべて然り

95-91125

1530

